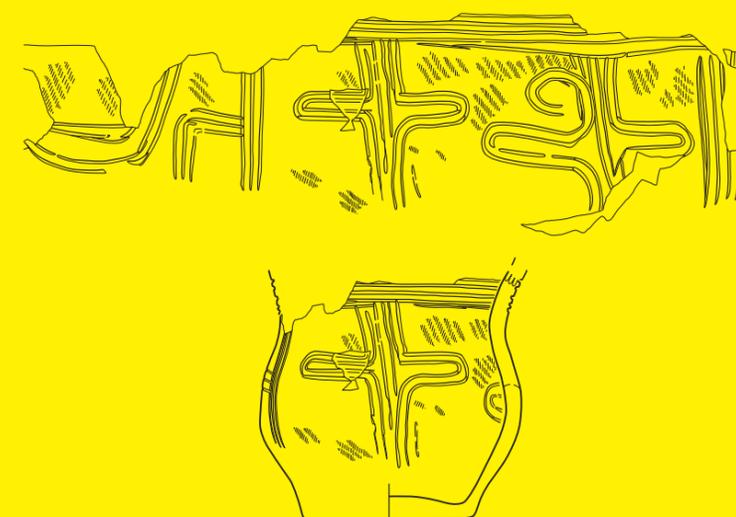


# 若林遺跡

(第8地点)

—公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—



2013  
水戸市教育委員会

# 若林遺跡

(第8地点)

— 公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

2013

水戸市教育委員会



## ごあいさつ

若林遺跡は、笠間市池野辺付近を水源とする桜川下流域の東茨城台地の上に位置しております。若林遺跡の近隣には、高天原遺跡・坏遺跡などの縄文時代中期の大集落や戦国時代に春秋氏が居城としていた河和田城跡など、縄文時代から戦国時代までの数多くの遺跡が残されており、古くから住みよい土地であったと考えられます。

歴史的文化遺産である埋蔵文化財は、その性格上一度破壊されてしまうと二度と原状に復すことができないため、現代を生きる私たちが大切に保存しながら後世へと伝えていかなければならない貴重な国民共有の財産です。

近年の大規模開発等による都市化の様相が強まる中で、埋蔵文化財の現状保存は非常に困難になりつつありますが、本市においてはその意義や重要性を踏まえ、文化財保護法並びに関係法令等に基づき、その保護・保存に努めております。

このたびの調査は、若林遺跡の範囲内にある私道において公共下水道管新設工事が計画され、文化財保護の観点から十分に協議を重ねた結果、その一部において遺跡の現状保存が困難であるとの結論に至り、次善の策として工事着手前に発掘調査を実施し、記録の上での保護措置を講ずることとしたものです。

今回の調査により、縄文時代中期の竪穴住居跡や土坑群、また中世以降に掘り込まれた井戸跡が検出されるとともに、関東地方固有の縄文土器のほか、東北地方に分布する縄文土器と文様・形が類似するものが出土するなど、北関東と南東北の境に位置する水戸の地理的特性や地域間交流を考えるうえで大変興味深い資料を得ることができました。

ここに刊行する本書が、かけがえのない貴重な文化財に対する意識の高揚と学術研究等の資料として、広く御活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、調査の実施にあたり多大な御理解と御協力を賜りました、地域住民の皆様と調査組織の皆様に心から感謝を申し上げます。

平成 25 年 3 月

水戸市教育委員会  
教育長 本 多 清 峰



## 例 言

- 1 本書は、私道（水戸市見和3丁目地内）公共下水道工事に伴う若林遺跡（第8地点）の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、株式会社シン技術コンサルの調査支援を受け、水戸市教育委員会が主体となって行った。
- 3 調査概要及び調査組織は下記の通りである。

所在地 水戸市見和3丁目1393-7番地先～1393-8番地先

調査面積 32.0㎡

調査期間 平成24年8月20日から平成24年9月5日まで

調査主体 水戸市教育委員会 教育長 鯨岡 武（平成24年10月4日まで）

教育長 本田 清峰（平成24年10月5日から）

調査担当者 米川 暢敬（水戸市教育委員会事務局文化課埋蔵文化財センター文化財主事）

調査支援 株式会社シン技術コンサル

池田 公一（調査担当）

松田 秀貴（測量担当）

調査参加者 神田 琢磨・斉藤 秀樹・佐々木 謙二・佐藤 武彦・高柳 悦子・皆川 明子

整理参加者 新井 かをり・木村 真弓・小池 雄利亜・坂本 勝一・佐藤 久美子・中里 洋子

長谷川 徹・畠中 朋・福嶋 正史・山田 千鶴子

事務局 会沢 俊郎 教育次長

中里誠志郎 文化課長

五上 義隆 文化課副参事兼埋蔵文化財センター所長

渥美 賢吾 文化課埋蔵文化財センター文化財主事

山戸 祐子 文化課埋蔵文化財センター嘱託員

色川 順子 文化課埋蔵文化財センター埋蔵文化財嘱託員

田中 恭子 文化課埋蔵文化財センター埋蔵文化財嘱託員

額賀 大輔 文化課埋蔵文化財センター埋蔵文化財嘱託員

鈴木 達也 文化課埋蔵文化財センター埋蔵文化財嘱託員

- 4 本書は、米川・池田が分担して執筆し、米川の助言・指導に基づいて池田が編集した。
- 5 出土遺物及び図面・写真などの記録類は、報告書刊行後一括して水戸市埋蔵文化財センターにて保管する。
- 6 発掘調査から本書の刊行に至るまで、下記の方々・諸機関より御教示・御協力を賜った。記して深く謝意を表したい（敬称略・順不同）。

文化庁文化財部記念物課、茨城県教育庁文化課、茨城セキスイハイム、アグリサポートおぎや、小林謙一

## 凡 例

- 1 本書に記している座標値は、世界測地系である。挿図のうち、平面図の方位記号は座標北を、土層断面図の水準線高の数値は、海拔標高をそれぞれ示す（単位：m）。
- 2 土層及び遺物の色調は、『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務所・（財）日本色彩研究所色票監修 2005 年版）に準拠する。
- 3 遺構平面図及び土層断面図の縮尺は、1/20, 1/60, 1/150 とし、各図にスケールを明示した。
- 4 遺構及び土層断面の略称に使用した記号は以下のとおりである。  
    竪穴建物跡：SI   土坑：SK   ピット：P   井戸跡：SE  
    ※攪乱・木根は「K」を用いた。
- 5 遺物実測図の縮尺について、土器類は 1/3, 石器は 1/2 での掲載を基本とし、各図にスケールを明示した。また、上記以外の縮尺の実測図は、遺物番号の右側に縮尺を明示した。
- 6 遺物法量の計測値については、cm 及び g で示した。
- 7 遺物番号は、実測図、観察表、写真図版とも共通である。
- 8 挿表中における括弧付き数字については、（ ）内が推定値、[ ] 内が遺存値・現存値を示す。
- 9 引用・参考文献は、一括して本文末に収めた。

## 本 文 目 次

ごあいさつ

例言・凡例・目次

### I 調査に至る経緯と調査の経過

- 1 調査に至る経緯 ..... 1
- 2 調査の方法と経過 ..... 2

### II 遺跡の周辺環境と既往の調査

- 1 地理的環境 ..... 3
- 2 歴史的環境 ..... 3
- 3 既往の調査 ..... 7

### III 検出された遺構と遺物

- 1 基本土層 ..... 8
- 2 検出された遺構と遺物 ..... 9

### IV 総括

- 1 集落の形態と袋状土坑 ..... 26
- 2 作成集団の土木技術 ..... 26

引用・参考文献 ..... 27

写真図版

## 図 版 目 次

第1図	調査対象地の位置	2	第9図	2・5・7号土坑	15
第2図	若林遺跡の位置	3	第10図	4・9・11・12・13号土坑	16
第3図	若林遺跡周辺の遺跡分布地図	5	第11図	10・15・17号土坑	17
第4図	基本土層	8	第12図	土坑出土遺物1 (SK02・SK04)	17
第5図	遺構配置図	10	第13図	土坑出土遺物2 (SK04・SK09)	18
第6図	1・3・16号竪穴住居跡	11	第14図	土坑出土遺物3 (SK09・SK11)	19
第7図	竪穴住居跡出土遺物 (SI01・SI03)	12	第15図	土坑出土遺物4 (SK09・SK10・SK13・P06)	20
第8図	6号井戸跡	12	第16図	土坑出土遺物5 (SK15)	21

## 表 目 次

第1表	若林遺跡周辺の遺跡一覧	4	第4表	縄文時代土器計測・観察表	22
第2表	若林遺跡における既往の調査一覧	7	第5表	縄文時代石器計測・観察表	22
第3表	ピット観察表	21	第6表	出土遺物集計表	23～25

## 写真図版目次

写真図版1	調査区完掘全景 (北から) 基本土層 (南から) SI01 完掘状況 (南から) SI16 完掘状況 (南から) SI16 土層断面 (東から)	写真図版3	SK10・SK17 完掘状況 (南から) SK10・SK17 土層断面 (西から) SK11 完掘状況 (南から) SK11 土層断面 (西から) SK13 完掘状況 (南から) SK13 土層断面 (西から) SK15 完掘状況 (西から) SK15 土層断面 (東から)
写真図版2	SI03・SI16 完掘状況 (南から) SE06 完掘状況 (東から) SK04・SK09 完掘状況 (南から) SK04・SK09 土層断面 (西から) SK09 遺物出土状況1 (南から) SK09 遺物出土状況2 (南から) SK09 遺物出土状況3 (南から) SK09 遺物出土状況4 (西から)	写真図版4	出土遺物 (1)
		写真図版5	出土遺物 (2)
		写真図版6	出土遺物 (3)



# I 調査に至る経緯と調査の経過

## 1 調査に至る経緯

平成 23 年 12 月 7 日付けで水戸市長高橋 靖（下水道整備課扱、以下、事業者）から水戸市教育委員会（以下、市教委）教育長あて、文化財保護法第 94 条第 1 項に基づく通知が提出されるとともに、茨城県教育委員会教育長あて進達するよう依頼があった（下整第 1021 号）。工事対象地である水戸市見和 3 丁目 1393-7 番地先～1393-8 番地先の私道は、周知の埋蔵文化財包蔵地「若林遺跡」の中心部に位置しており、これまでの周辺における調査結果から遺構・遺物の濃密な分布が予測された。

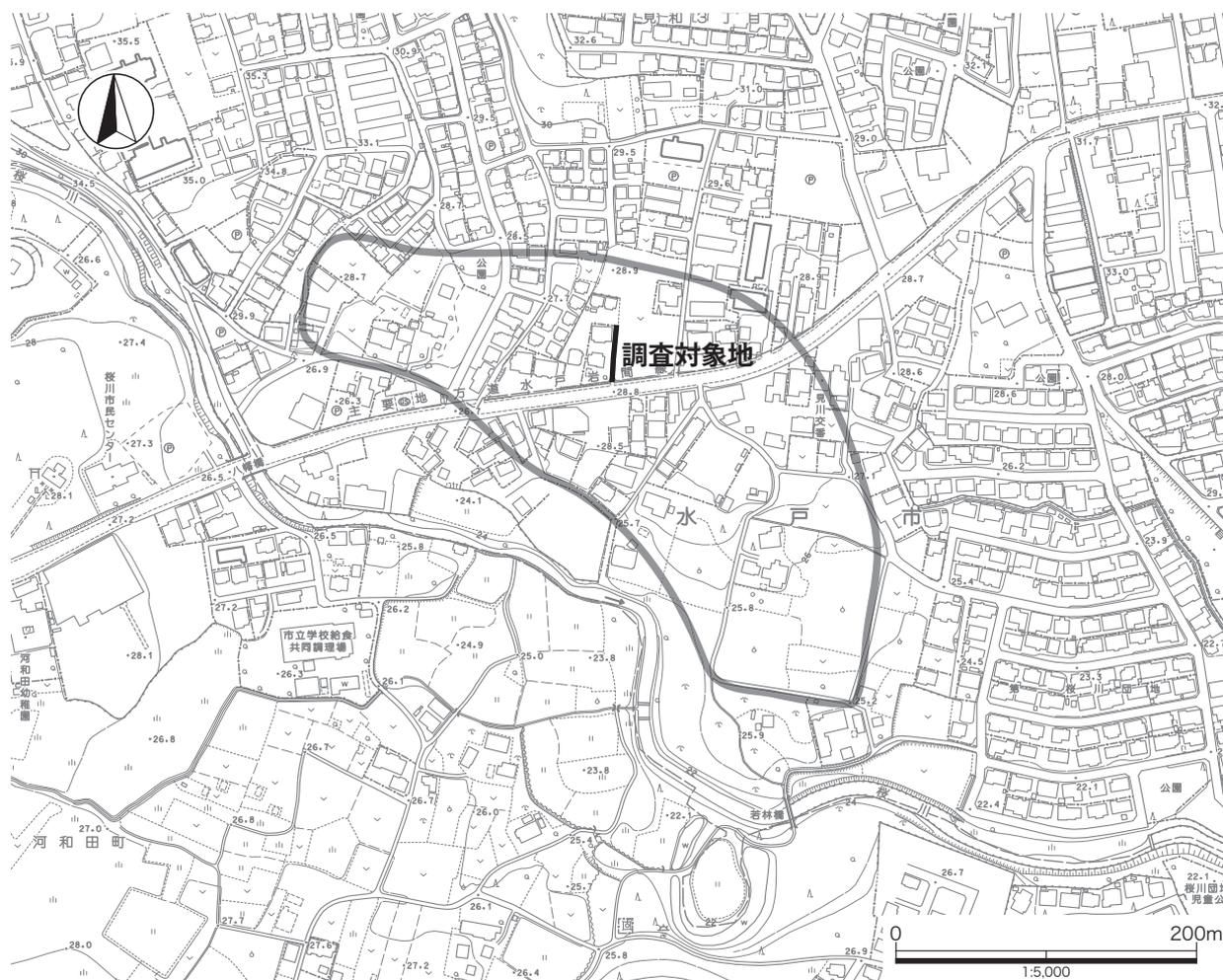
市教委は、事業者と保存について協議を重ねたが、地域住民からの要望を受けての事業であり、計画変更等は困難であるとの結論に達した。そのことから、原因者から提出された文化財保護法第 94 条第 1 項に基づく通知に、記録保存を目的とした本発掘調査の実施が相当である旨、意見書を付して茨城県教育委員会（以下、県教委）教育長あて進達した。

この通知に対し、県教委教育長からは、工事着手前に発掘調査を実施すること、調査の結果、重要な遺構が確認された場合には、その保存について別途協議する旨の指示・勧告があった（平成 24 年 1 月 4 日付け文第 1807 号）。市教委は調査対象面積を 32㎡とし、株式会社シン技術コンサルの支援を受けて、平成 24 年 8 月 20 日から 9 月 5 日の期間に本発掘調査を実施することとした。（米川）



## 2 調査の方法と経過

本調査は、公共下水道工事に伴う掘削部分の南北32m×東西1mを対象として調査区を設定した。調査面積は32㎡を測る。今回の調査地点の周辺では、過去の調査により縄文中期の遺構が検出されている。その事により、今回の調査においても縄文中期の遺構が検出されると想定された。平成24年8月20日から調査区北側から重機を用いて表土掘削を開始、翌21日に終了した。現地表から調査区北側で約60cm、南側で約10cmの深さでローム層を確認し、その面を遺構確認面とし調査を開始した。遺構の調査についてはすべて人力により行い、調査区北側からは竪穴住居3軒、南側からは土坑11基などを検出した。遺構の実測については、トータルステーションによる器械測量を基本とし、一部実測図については写真測量及び手測りにより行った。遺構内の遺物については、原則としてトータルステーションによる3次元計測を基本としたが、一部の遺構については、層位により一括で取り上げている。写真記録については、35mmモノクロフィルム、35mmリバーサルフィルム、デジタルカメラ（1000万画素）を使用した。9月1日にすべての調査を終了し、当日より人力により埋戻しを開始し9月3日からは重機を用い埋戻しを行った。9月4日より出土遺物・図面・写真等の整理作業を開始し、その後報告書掲載遺物の選別・実測を行った。また報告書執筆は調査終了時から始め、1月10日より、報告書版組作業を行い印刷業者に入稿した。



第1図 調査対象地の位置

## II 遺跡の周辺環境と既往の調査

### 1 地理的環境

若林遺跡は、北緯 36 度 22 分 16 秒、東経 140 度 25 分 22 秒（世界測地系）の茨城県水戸市見和 3 丁目地内に所在し、その範囲は東西 400m、南北 300m の範囲に及ぶ。

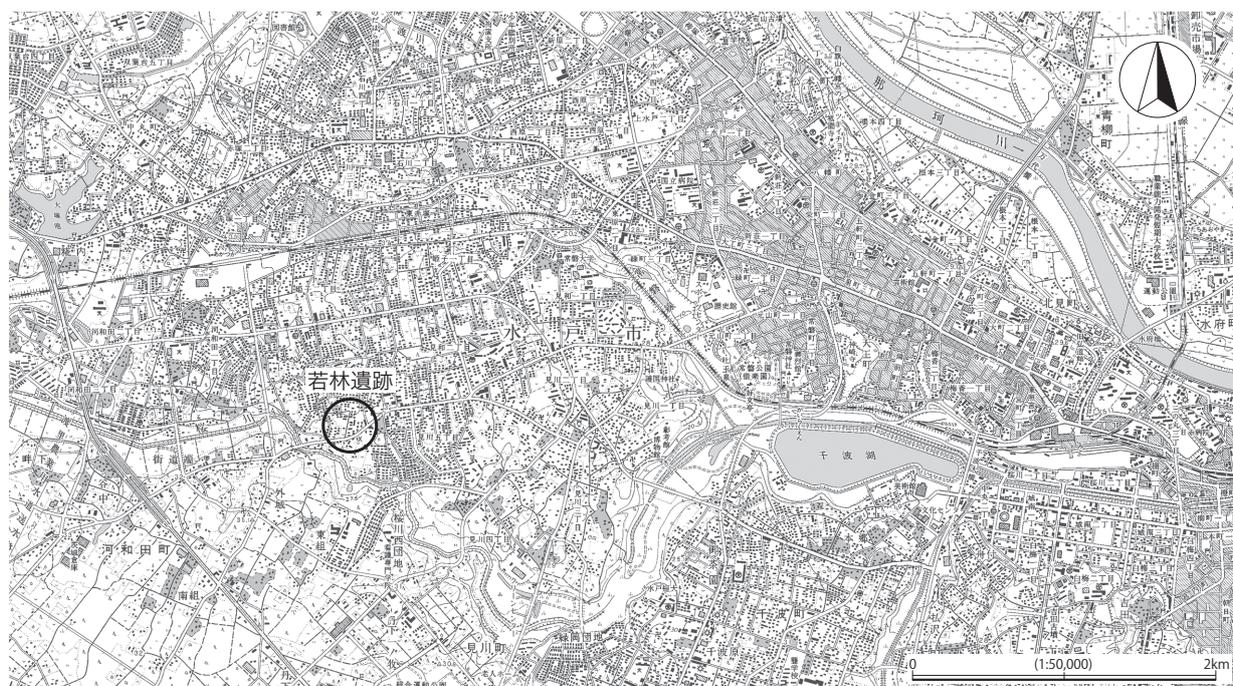
若林遺跡が立地する水戸市見和地区は、桜川と沢渡河に挟まれた見和台地の南側、那珂川水系の支流である桜川によって開析された河岸段丘の北岸、標高 33～35m の台地縁辺部に位置する。

桜川は古くは千波湖を経由して那珂川と接続していたことより、桜川の水運やその水資源の活用を基盤として、古来より発展してきた。その流路沿いに多数の遺跡が存在していることはその傍証である。（米川）

### 2 歴史的環境

若林遺跡の立地する桜川流域の台地上には旧石器時代～近世に至るまでの多数の遺跡が形成されており（第 3 図・第 1 表）、以下では、旧石器時代から近世に至るまでの遺跡の既往の調査成果等を概観する。

**旧石器時代** この時代の遺跡は、赤塚遺跡が該当し、昭和 46（1971）年の赤塚西団地造成に伴う発掘調査の際、両面調整尖頭器や両設打面の石核から剥離されたとみられる縦長剥片などが出土している（金子 1973）。昭和 57（1982）年の国道 50 号バイパス敷設に伴う調査の際には、第二黒色帯とみられる地層中よりナイフ形石器・台形様石器・剥片・石核・敲石・台石などが出土している（外山 1983）。また、平成 19（2009）年度に水戸市教育委員会が実施した第 4 地点の試掘調査においても硬質頁岩製の剥片などが出土している（川口・色



国土地理院 1/25,000 数値地図『水戸』に加筆

第 2 図 若林遺跡の位置

第1表 若林遺跡周辺の遺跡一覧

No.	遺跡名	種別	遺物	備考
013	見和遺跡	集落跡		湮滅
014	高天原遺跡	集落跡	縄文土器(中・後・晩)・打製石斧・磨製石斧・凹石・磨石(縄), 弥生土器(後), 土師器(古), 土師質土器(中・近)	S59年本調査
015	环遺跡	集落跡	縄文土器(中・後)・土製円盤・石鏃・打製石斧・磨石・敲石・凹石・石皿・有溝砥石・磨製石器・剥片, 弥生土器(後), 土師器(古), 土師質土器皿・内耳土鍋・陶器(中), 石製硯・砥石(中・近)	H8・H18・H24年本調査
016	若林遺跡	集落跡	縄文土器(中)・打製石斧・磨製石斧・敲石・石皿(縄), 土師器, 陶器・磁器・土師質土器(近)	第2表に既往の調査歴を記載
042	赤塚遺跡	集落跡	ナイフ形石器・台形礫石器・剥片・石核・敲石・台石(旧), 縄文土器(前・中・後・晩)・磨製石斧・石鏃(縄), 土師器・須恵器・勾玉・鏡形石製模造品・剣形石製模造品・土玉(古), 土師器・須恵器・威骨器(奈・平), 磁器(近)	H18・H19・H20年試掘 S57年・H21年本調査
066	下荒勾遺跡	集落跡	縄文土器(中)	H18・H19・H20年試掘
081	堀町西古墳群	古墳群	縄文土器(中)・土製円盤・土器片錘・石鏃・敲石・磨製石斧(縄), 土師器(古・奈・平), 須恵器・土玉(奈), 刀子(古・奈・平), 鉄斧(古), 銭貨(中)	H19・H21年茨城県教育財団による本調査
082	下荒勾古墳群	古墳群		円2(20?)
083	街道端古墳群	古墳群		円0(3), 湮滅
085	赤塚古墳群	古墳群	円筒埴輪	S45～S46年本調査 帆立貝2(3), 円2(21), 方0(19)
102	河和田城跡	城館跡	縄文土器(中), 陶器(中)	H18～H24試掘, H12・H24本調査
107	大内田遺跡	集落跡		H24年試掘調査
122	池上遺跡	集落跡		H19・H20年試掘
138	北原古墳群	古墳群		円1(2)
139	北原遺跡	集落跡	縄文土器, 土師器(古), 須恵器	
144	宮西遺跡	集落跡	縄文土器, 土師器(古)	H20・H22年試掘
145	巡見遺跡	集落跡	縄文土器(前・中), 土師器(古)	H21・H24年試掘
153	開江宿遺跡	集落跡	土師器・須恵器(奈・平)	
167	杵掛遺跡	集落跡	土師器(古前)	H21・H22・H24年試掘, H22年本調査
173	見川城跡	城館跡		H20年試掘
273	淡島神社経塚	塚	陶器・磁器(近)	
274	経塚遺跡	包蔵地	陶器・磁器・土師質土器・瓦質土器(中・近)	H17年試掘調査
280	街道端愛宕神社塚	塚		
288	開裏窯跡	生産遺跡	陶器・窯道具(近)	(川口・関口 2007)
311	高野下遺跡	包蔵地		
312	開江南遺跡	包蔵地		
313	野田原遺跡	包蔵地		
314	西堀原遺跡	包蔵地		
315	見和一丁目遺跡	包蔵地		
316	見和二丁目遺跡	包蔵地		
323	桜川西遺跡	包蔵地		
331	丹下一ノ牧野馬土手跡	野馬土手	縄文土器(中), 陶磁器・土師質土器(近)	H21年試掘・測量調査



『茨城県遺跡地図』1/25,000 より

第3図 若林遺跡周辺の遺跡分布地図

**縄文時代** 当時代の遺物は、高天原遺跡・坏遺跡・赤塚遺跡・下荒句遺跡・堀町西古墳群・河和田城跡・北原遺跡・宮西遺跡・巡見遺跡・丹下一ノ牧野馬土手跡などで出土しているが、遺構が確認されているのは、高天原遺跡と坏遺跡、堀町西古墳群に限られる。高天原遺跡からは、大木 8a 式古段階～新段階の土器が多数出土した竪穴住居跡 1 軒のほか、大木 8b 式期の袋状土坑 4 基が検出されている（井上 1985）。坏遺跡は、数地点において発掘調査が行われているが、地点毎に遺構の時期が異なっている。第 1 地点は阿玉台Ⅲ～Ⅳ式期、加曾利 E1～E3 式期の遺構・遺物が検出されているのに対し（井上・鈴木 1996）、第 3 地点は阿玉台 I b～阿玉台Ⅳ式期の遺構・遺物が（小川編 2007）、第 4 地点においては、阿玉台Ⅲ式・加曾利 E1～EⅣ式、称名寺Ⅱ式、堀之内式、加曾利 B 式の遺構・遺物が検出されている（三輪編 2007）。標高の高い第 3 地点から低い第 4 地点に向かって遺構・遺物の時期が新しくなる傾向がある。堀町西古墳群からは、中期後葉加曾利 E1 式期の竪穴住居跡 1 軒と中期中葉阿玉台Ⅱ式期の土坑 1 基が検出されている（齋藤 2011）。

**弥生時代** 当時代の遺跡は市域全体を見回しても遺跡数が極めて少ない。若林遺跡周辺では、高天原遺跡（第 1 地点）及び坏遺跡（第 3 地点）の調査において後期の土器片が出土しているのみにとどまる（井上 1985、小川編 2007）。

**古墳時代** 当時代の遺跡は墳墓である古墳（群）と集落遺跡に分けられる。古墳群で発掘調査が行われているのは赤塚古墳群と堀町西古墳群に限られる。赤塚古墳群は正式報告書が未刊行のため、調査担当者による解説（伊東 1974）からしか情報が得られないが、前方後円墳 3 基、円墳 12 基、方墳 19 基（うち方形周溝墓 18 基）から構成される古墳群であったようで、東の E 支群と西の W 支群（方形周溝墓 18 基含む）に分かれている。円筒埴輪が出土していることから後期古墳が含まれることは確実であるが、中期古墳の存在は未詳である。堀町西古墳群では、円墳 2 基と方墳 1 基が確認され、うち第 1 号墳と第 3 号墳は、出土土器から 5 世紀第 2 四半期頃に築造された中期古墳であることが判明している（齋藤 2011）。集落跡で発掘調査が行われているのは、赤塚遺跡と堀町西古墳群に限られ、赤塚遺跡（第 1 地点）では、古墳時代前期と中期の竪穴建物跡が検出されている（外山 1983）。

**奈良・平安時代** 水戸市の一带は奈良・平安時代には常陸国那賀郡に属し、その政治的中心地である郡衙と郡衙周辺寺院は、水戸市渡里町一带に広がる国史跡「台渡里官衙遺跡群 台渡里官衙遺跡 台渡里廃寺跡」であると考えられている。若林遺跡の周辺で当時代の遺構・遺物が確認されているのは、坏遺跡・赤塚遺跡・堀町西古墳・開江宿遺跡に限られる。坏遺跡（第 1 地点）では 7 世紀末～8 世紀初頭頃の竪穴建物跡 1 軒が確認されており（井上・鈴木 1996）、赤塚遺跡（第 1 地点）では、奈良時代～平安時代の火葬墓 10 基がまとめて検出されている（外山 1983）。堀町西古墳群では、奈良時代前半の竪穴建物跡 2 軒、奈良時代半ば頃の竪穴建物跡 2 軒が検出されるとともに、「開」や「造」と記銘された平安時代前半の墨書土器などが出土している（齋藤 2011）。

**中世・近世** 中世・近世の遺跡は、城館跡・集落・塚・野馬土手がある。城館跡で注目されるのは、江戸氏の重臣であった春秋氏の居城として利用された河和田城跡であろう。同城跡はまだ発掘調査が部分的にしか及んでいないため、築城時期や曲輪の性格など不明な部分が多いが、今後の発掘調査の進展により解明されることが期待される。集落では経塚遺跡・坏遺跡の調査成果がある。経塚遺跡（第 2 地点）では、中世の地下式坑や河和田城跡に関連する堀跡などが検出されている（川口・渥美編 2007）。坏遺跡（第 3 地点）では、掘立柱建物跡 2 棟・溝状遺構 3 条・地下式坑 4 基・土坑 22 基・ピット 52 基・ピット群 2 箇所が検出されており、遺構の変遷から屋敷地から堀に囲繞された定住的な中世村落へと変貌している状況が指摘されている（小川編 2007）。塚は街道端愛宕神社塚・淡島神社経塚があるが、調査が行われていないためそれぞれの性格については未詳である。丹下一ノ牧野馬土手跡は、第 9 代水戸藩主徳川斉昭によって天保 4 年から 6 年にかけて開設された桜野牧跡の一部とみられるもので、平成 21 年度に行われた水戸市教育委員会による試掘・測量調査の際、堀跡から 18 世紀後半～末葉にかけての陶磁器が出土している。（米川）

### 3 既往の調査

若林遺跡においては、これまで9地点において18次にわたる発掘調査が実施されている。その内訳は試掘調査14件、本発掘調査4件である（第2表）。これらのうち、注目されるのは第1地点と第2-2地点・第4地点の本発掘調査成果であろう。

第1地点 宅地造成工事に伴う第1地点の調査では、縄文時代中期前葉阿玉台式の竪穴住居跡1軒と阿玉台式から中期後葉の加曾利E式期に営まれた土坑群58基、屋外炉2基（壁が失われた竪穴建物の可能性有）、ピット1基が検出されている（関口・林 2009）。58基の土坑群からは、逆位の状態で出土した深鉢形土器や石製装身具などとともに磨石や石皿などが多数出土しており、これらの土坑群が貯蔵穴としての性格を持っていたことを裏付ける。また、地下式墳も1基検出されていることから、中世の土地利用が展開していたことも確認された。

第2-2地点・第4地点 共同住宅新築工事に伴う第2-2地点・第4地点の発掘調査では、第2-2地点より、縄文時代中期前葉阿玉台式の竪穴住居跡2軒・土坑5基、第4地点より、縄文時代中期前葉阿玉台式の竪穴住居跡3軒・土坑3基・ピット16基などが検出された（林・渥美 2012）。

以上の3地点の調査成果で注目される点は、阿玉台式期の竪穴住居跡の分布が土坑群と重複しない点である。このように住居跡群とフラスコ・袋状土坑群が一定のまとまりを見せない傾向については、環遺跡（第4地点）の調査報告書において三輪孝幸が指摘しているところであり（三輪編 2007）、同様の傾向が若林遺跡の他地点でも見られるのか、土器型式毎の集落構成を考えるうえでも興味深い。（米川）

第2表 若林遺跡における既往の調査一覧

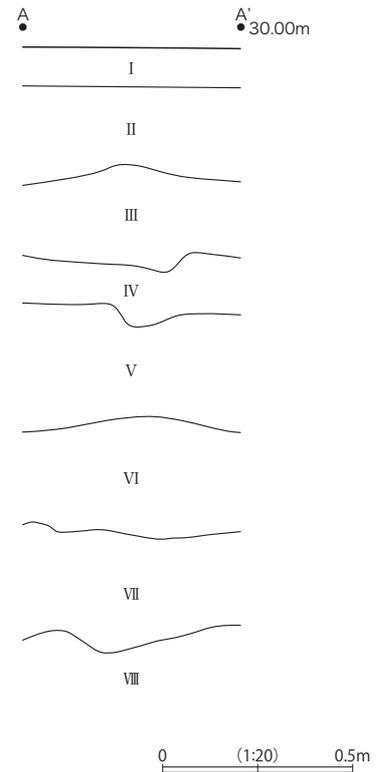
地点	回数	所在地	調査期間	種別	調査原因	遺構	遺物
1	1	見和3丁目1391-1	平成18年10月12日	試	宅地分譲	○	○
	2	見和3丁目1391-1-他	平成21年2月2日	本	宅地造成	○	○
	3	見和3丁目1389-1	平成21年7月21日	試	個人住宅	○	○
	4	見和3丁目1389-6, -7, -8, -9, -10, -15	平成21年7月28日～7月29日	試	個人住宅	○	○
	5	見和3丁目1389-13	平成21年10月13日	試	個人住宅	—	—
	6	見和3丁目1389-12	平成24年3月14日	試	個人住宅	—	—
	7	見和3丁目1389-11	平成25年9月26日	試	個人住宅	—	—
2	1	見川5丁目1232, 1233	平成19年4月9日～4月10日	試	共同住宅	—	○
	2	見川5丁目1307-6	平成23年9月12日～10月4日	本	集合住宅	○	○
	3	見川5丁目1232-2の一部, 1233-2	平成23年6月15日	試	共同住宅	○	○
3	見川3丁目1394-1, 1393-4の各一部	平成23年6月28日	試	集合住宅	—	○	
4	1	見川5丁目1307-6	平成23年7月15日	試	集合住宅	○	○
	2	見川5丁目1232-2	平成23年10月5日～10月25日	本	共同住宅	○	○
5	見川5丁目1301-2	平成23年11月17日	試	個人住宅	○	○	
6	見川5丁目1301-3	平成24年2月17日	試	個人住宅	—	—	
7	見川5丁目1231-1	平成24年6月27日	試	携帯電話基地局	—	—	
8	見和3丁目(1393-7番地先～1393-8番地先)	平成24年8月20日～9月5日	本	公共下水道	○	○	
9	見川5丁目1228-17	平成24年9月19日	試	個人住宅	—	—	

### Ⅲ 検出された遺構と遺物

#### 1 基本土層

基本土層は遺構検出面までを調査区東側壁面を利用し，下層部については調査区中央部西側壁面に基本土層確認のためのテストピットを設けて土層観察を行った。基本土層の概要は以下の通りである（第4図）。

- I 10YR6/1 褐灰白色土 碎石を含む整地層
- II 10YR3/2 黒褐色土 旧耕作土 粘性やや強 締りやや強
- III 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや強 締りやや強  
赤色スコリアを少量含む
- IV 10YR3/3 暗褐色土 粘性強 締り強  
赤色スコリア・炭化物を少量含む  
一部にロームブロックが混入する
- V 10YR6/6 明黄褐色土 ソフトローム 粘性強 締り強  
φ 1mm以下の赤色スコリアを微量に含む  
φ 2mm程の炭化物を微量に含む
- VI 10YR7/6 明黄褐色土 ハードローム 粘性非常に強い  
締り非常に強い スコリア含まず  
φ 2～5mmの炭化物を微量に含む
- VII 10YR7/6 明黄褐色土 ハードローム 粘性非常に強い  
締り非常に強い（粘性・締りともII層よりも強い）  
φ 1mm以下の炭化物を微量に含む
- VIII 10YR8/8 黄橙色土 鹿沼軽石層 粘性強 締り強  
含有物なし（粘性・締り伴に強いが，移植ゴテでサクサクと切れる）



第4図 基本土層

## 2 検出された遺構と遺物

遺構は調査区内全域で発見されており、中央より北側では竪穴住居跡が、南側では土坑が集中する傾向が窺える。発見された遺構は、竪穴住居跡3軒、井戸跡1基、土坑11基、ピット13基で、所属時期は井戸跡を除いて概ね縄文時代中期と判断される。

### 竪穴住居跡

#### SI01 (第6・7図)

検出位置 調査区北側に位置し、住居跡の東西双方が調査区外に延びる。

規模 調査箇所は住居跡の南北長軸部分と思われ、各々の計測値は上面径3.53m、床面径2.97m、深さ0.11mである。

構造 住居跡中央部には支柱穴と判断される径0.85m、深さ0.69mのP1が、また南北壁際には3本の補助柱穴が付随する。床面は中央部に向かって幾分傾斜するものの概ね平坦である。狭小な調査区に阻まれるため、形状や付随する施設等について不明な点が多々あることは否めないが、形状については楕円形と判断できる。

遺物 土器片103点、石器では磨石の痕跡を残す礫が1点出土している。土器は小破片が多く、明示できるものは少ない。1は深鉢形土器の口縁部片で、波頂部下に隆帯による渦巻文を配す。地文に単節RLの縄文を施文する。

時期 出土土器には阿玉台Ⅲ式から中期後半までの型式が混在するものの、中期中葉のものが多数を占めること、また図示した1の特徴を以て中期中葉の範囲内としたい。

#### SI03 (第6・7図)

検出位置 調査区北側に位置し、やはり住居跡の大半が東西の調査区外に延びる。

規模 調査箇所における各計測値は、上面径5.5m、床面径5.05m、深さ0.41mであり、比較的大型な住居跡の部類に入る。なお、北壁にて発見されたP1については、当初本住居跡に付随するものと考えられたが、重複関係にあるピットと理解した。

構造 壁はほぼ垂直に立ち上がり、南北の壁際には径0.5mほどの補助柱穴を、また支柱穴としてP2を配す。柱穴の形状は円形ないしは楕円形で、床面からの深さは30～50cmである。床面にはトーンでその範囲を示したが、非常に硬く締まった箇所が認められる。

遺物 縄文土器片が161点ほど出土しているが、器形や文様構成について図示できるものはない。3は刃部を欠損する片岩製の打製石斧で、側面には顕著な敲打痕が残る。

時期 出土土器片内には中期中葉の特徴を示すものが多数存在することから、SI01と同じ時期に構築されたと考えられる。

#### SI16 (第6図)

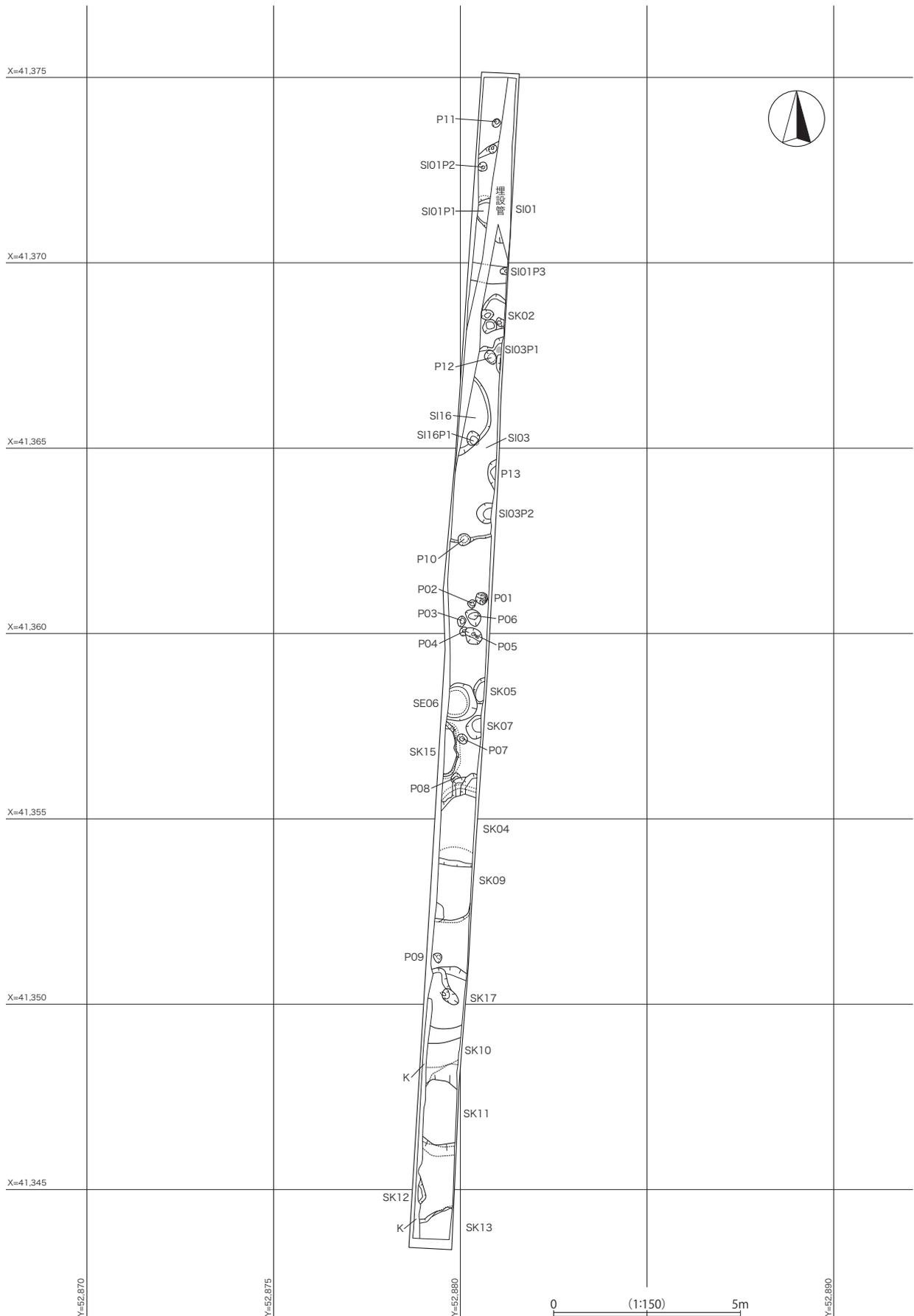
検出位置 上述したSI03の床面を除去した際に発見された住居跡である。一部を調査したに過ぎず、住居跡とすることの判断に迷うところであるが、ここでは壁・床面及び覆土の状況から住居跡と理解した。

規模 大半が西側調査区外に延びるため、やはり詳細は不明である。調査箇所においては上面径2.16m、床面径1.86m、深さ0.28mを測る。

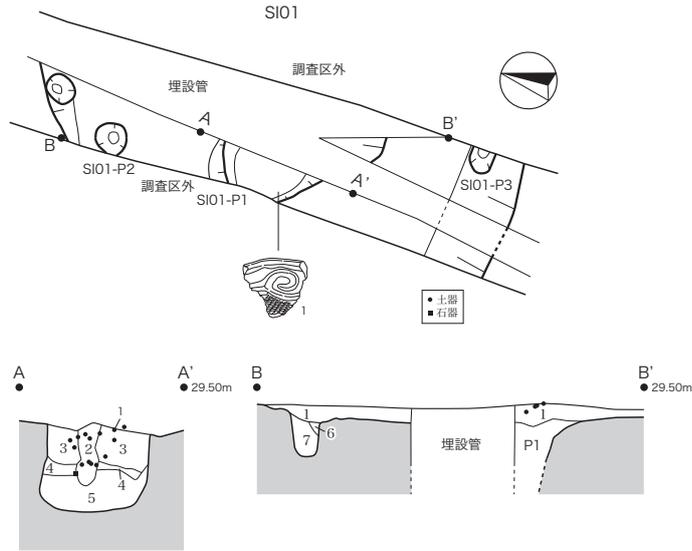
構造 平面形を類推すると、おそらく径3.0m前後の円形と考えられ、南側際には柱穴に相当する径0.34mのピットが掘り込まれる。北壁はほぼ垂直に、また南壁では緩やかに立ち上がる。覆土は双方の壁際付近で概ね自然埋没を、中央部北側では人為的な埋め戻しが行われた状況を示す。このことは、明らかに本SI16を埋め戻し、先に述べたSI03を構築したことを物語るものである。

遺物 縄文土器片が18点出土しているが、すべて小片であり図示できるものはない。

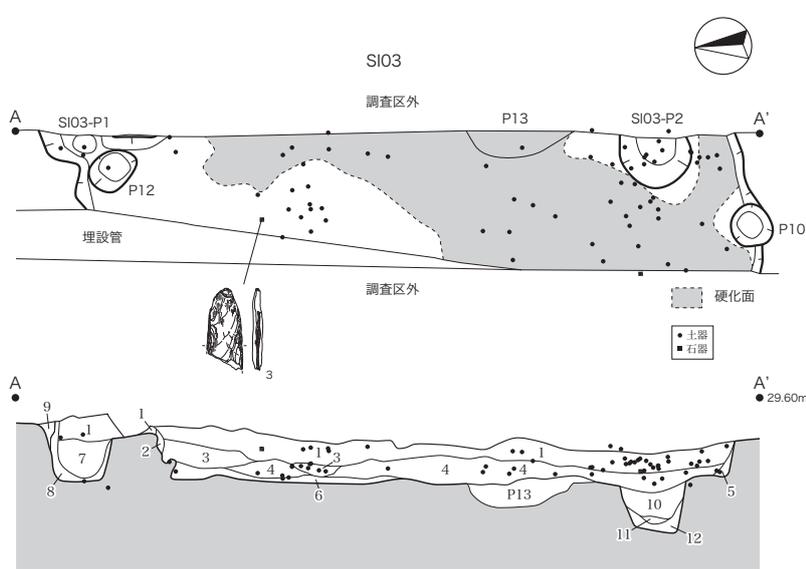
時期 重複関係からSI03より以前の遺構であることは明確であるが、時期を特定することは難しい。出土土器は数型式に跨るが、最も後出する中期中葉に相当しようか。



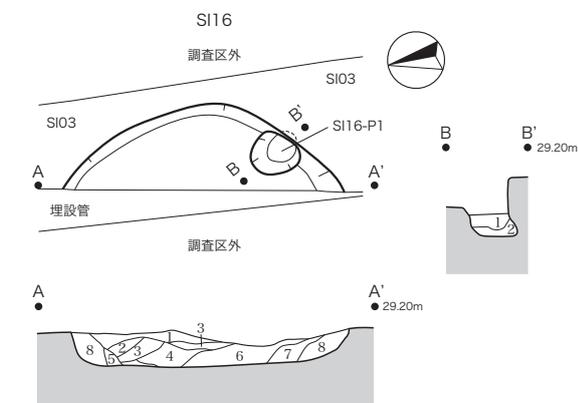
第5図 遺構配置図



- SI01
- 1 10YR3/2 粘性強 締り強  $\phi$  3~5mmの赤色スコリアを少量含む  $\phi$  5~10mmの炭化物を少量含む  $\phi$  5~20mmのロームブロックを少量含む
  - 2 10YR3/1 粘性やや弱 締り弱  $\phi$  2~3mmの赤色スコリアを少量含む  $\phi$  2~3mmの炭化物を微量に含む  $\phi$  3~5mmのローム粒を少量含む
  - 3 10YR3/2 粘性やや強 締り強  $\phi$  1~3mmの赤色スコリアをやや多く含む  $\phi$  1~5mmの炭化物を少量含む  $\phi$  1~3mmのローム粒をやや多く含む
  - 4 10YR3/3 粘性強 締り強  $\phi$  1~3mmの赤色スコリアを微量に含む  $\phi$  2~10mmの炭化物を少量含む  $\phi$  5~10mmのロームブロックを少量含む
  - 5 10YR4/4 粘性強 締り強  $\phi$  1~3mmの赤色スコリアを少量含む  $\phi$  2~20mmの炭化物を少量含む  $\phi$  1~5mmのローム粒を多量に含む  $\phi$  5~20mmのロームブロックを多量に含む
  - 6 10YR3/2 粘性やや強 締り強  $\phi$  1~3mmの赤色スコリアをやや多く含む  $\phi$  1~5mmの炭化物を少量含む  $\phi$  1~3mmのローム粒をやや多く含む
  - 7 10YR3/3 粘性強 締り強  $\phi$  1~3mmの赤色スコリアをやや多く含む  $\phi$  1~5mmの炭化物を少量含む



- SI03
- 1 10YR3/2 粘性強 締り非常に強い  $\phi$  1~2mmの白色スコリアをやや多く含む  $\phi$  2~3mmの炭化物を少量含む
  - 2 10YR3/2 粘性強 締り強 スコリア・炭化物含まず  $\phi$  20mm程のロームブロックをやや多く含む
  - 3 10YR3/1 粘性強 締り非常に強い  $\phi$  1mm程の赤色スコリアを少量含む  $\phi$  1mm程の炭化物を微量に含む  $\phi$  20~100mmのロームブロックを少量含む
  - 4 10YR3/1 粘性強 締り非常に強い  $\phi$  1mm程の赤色スコリアを少量含む  $\phi$  1mm程の炭化物を微量に含む
  - 5 10YR3/2 粘性強 締り強 スコリア・炭化物含まず
  - 6 10YR2/2 粘性強 締り非常に強い  $\phi$  1mm程の赤色スコリアを微量に含む  $\phi$  1mm程の炭化物を微量に含む  $\phi$  2~5mmのローム粒を少量含む
  - 7 10YR3/1 粘性強 締り非常に強い  $\phi$  1mm程の赤色スコリアを少量含む  $\phi$  1mm程の炭化物を微量に含む  $\phi$  20~50mmのロームブロックを少量含む
  - 8 10YR3/2 粘性強 締り強  $\phi$  1mm程の赤色スコリアを少量含む  $\phi$  1mm程の炭化物を微量に含む
  - 9 10YR3/2 粘性強 締り強  $\phi$  1mm程の赤色スコリアを少量含む  $\phi$  1mm程の炭化物を微量に含む  $\phi$  20mm程のロームブロックを少量含む
  - 10 10YR3/2 粘性強 締り強  $\phi$  1~3mmの赤色スコリアを少量含む  $\phi$  1~2mmの炭化物を微量に含む  $\phi$  1~5mmのローム粒を少量含む
  - 11 10YR3/3 粘性強 締りやや強  $\phi$  1~2mmの赤色スコリアを微量に含む  $\phi$  1~2mmの炭化物を微量に含む  $\phi$  1~3mmのローム粒を少量含む
  - 12 10YR2/2 粘性強 締り強 スコリアを含まない  $\phi$  1mm以下の炭化物を微量に含む  $\phi$  5~15mmのロームブロックをやや多く含む



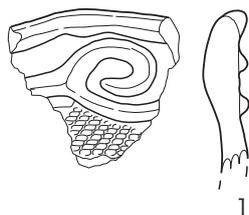
- SI16
- 1 10YR3/2 粘性強 締り強  $\phi$  1mm以下の赤色スコリアを微量に含む  $\phi$  1~3mmの炭化物を少量含む  $\phi$  1~5mmのローム粒を少量含む
  - 2 10YR3/2 粘性強 締り強  $\phi$  1mm以下の赤色スコリアを微量に含む  $\phi$  1mm以下の炭化物を微量に含む  $\phi$  1~2mmの白色スコリアを微量に含む  $\phi$  2~10mmのローム粒を多量に含む
  - 3 10YR2/2 粘性強 締り非常に強い  $\phi$  1mm以下の赤色スコリアを微量に含む  $\phi$  1mm以下の炭化物を微量に含む  $\phi$  1~2mmのローム粒を少量含む
  - 4 10YR3/1 粘性強 締りやや強 スコリア含まず  $\phi$  1~3mmの炭化物を微量に含む  $\phi$  1~5mmのローム粒を少量含む  $\phi$  500mmロームブロックを2ヶ所見られる
  - 5 10YR3/3 粘性強 締り非常に強い スコリア含まず  $\phi$  1~2mmの炭化物を微量に含む
  - 6 10YR3/2 粘性強 締り非常に強い  $\phi$  1~2mmの赤色スコリアを微量に含む  $\phi$  2~5mmの炭化物を少量含む  $\phi$  1~2mmのローム粒をやや多く含む
  - 7 10YR3/2 粘性強 締りやや強 スコリア・炭化物含まず  $\phi$  2~5mmのローム粒を少量含む
  - 8 10YR2/3 粘性強 締り強 スコリア含まず  $\phi$  2~5mmの炭化物を微量に含む  $\phi$  2~3mmのローム粒を微量に含む  $\phi$  400~600mmのロームブロックを含む

- SI16-P1
- 1 10YR3/3 粘性強 締り非常に強い  $\phi$  1~2mmの赤色スコリアを微量に含む  $\phi$  1~2mmの炭化物を微量に含む  $\phi$  2~5mmのローム粒を少量含む
  - 2 10YR3/3 粘性強 締り非常に強い スコリア含まず  $\phi$  1~3mmの炭化物を微量に含む

0 (1:60) 2m

第6図 1・3・16号竪穴住居跡

SI01



SI03



0 (1:2) 5cm

0 (1:3) 10cm

第7図 竪穴住居跡出土遺物 (SI01・SI03)

井戸跡

SE06 (第8図)

検出位置 中央部に位置し、西側が僅かに調査区外に延びると共に SK05 と重複関係にある。

規模 上面径は 1.1m 前後の円形、深さは壁の崩落の危険性を回避するまでの 1.12m までを調査した。そのため底面及びその深さまでは確認していない。

構造 確認面付近で緩く開く素掘りの井戸跡である。

遺物 1層内に流れ込んだ縄文土器片が数点出土したが、遺構に共伴する遺物はない。

時期 直接的に構築時期を決定する遺物は無く、覆土や形状等から判断して中世以降に掘られた井戸であろうか。

土坑

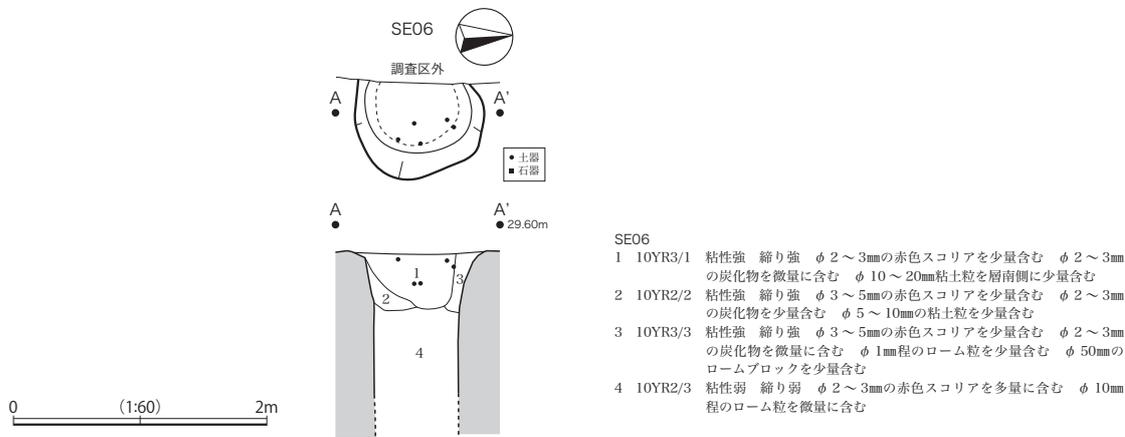
SK02 (第9・12図)

検出位置 調査区北側にて SI01 と SI03 の間に位置し、東側の一部が調査区外に延びる。

規模 南壁に 3本のピットが存在するが、これらが本土坑に共伴するかについては判断し兼ねる。これらを除いた計測値は、推定で長軸 0.85m、短軸 0.8m、深さ 0.28m である。

構造 平面形は隅丸方形を呈し、底面は軟弱で脆い。切り合うピットを含め倒木痕の可能性も拭いきれないが、出土遺物の点数や大型土器片が含まれることを考慮すると、縄文時代の範疇として大過なからう。

遺物 小破片 4点と共に器形復元可能な 2がある。キャリバー状の深鉢形土器で、無文の口縁部に結節沈



第8図 6号井戸跡

線文を伴う瘤状に突出した「Y」字状隆帯を貼付する。また、その直下から8本一組の櫛歯状工具による条線文が多数垂下する。

時 期 器形復元された2に結節沈線文を伴うことから、阿玉台Ⅲ式の範疇であろう。

#### SK04 (第10・12・13図)

検出位置 調査区中央部からやや南寄りに位置し、大半が調査区外に延びると共にSK09と重複関係にある。

規 模 開口部を円形と考えると、その大きさは推定で径2.4m、同じく括れ部は1.65m前後であろう。確認面からの深さは0.71m、底径は1.85mである。

構 造 断面形が大きくオーバーハングするいわゆる袋状土坑で、北側開口部には階段状の掘り込みが付随する。開口部及び底面径が大型であるものの、それと比較して掘り込みが比較的浅い点が特徴的である。

遺 物 縄文土器片が142点出土している中で、2点を図示した。5は無文の深鉢形土器で、器面には縦方向の擦痕が顕著である。6は大型な深鉢形土器の底部で、底面には微かに網代痕が残る。4は砂質片岩製を用い、凹石と砥石の利用が認められる。

時 期 小破片内には大木8a式のメルクマールとなる文様が認められること、さらに構造上、掘り込みが浅くなる点もこの時期の特徴である。重複関係にあって本土坑よりも後に掘り込まれたSK09の出土遺物を見ると、文様的に大差ないことから双方は近接した時間内に構築されたと考えられる。

#### SK05 (第9図)

検出位置 調査区のほぼ中央に位置し、SE06と重複関係にある。

規 模 推定で長径0.8m、短径0.56mの楕円形で、深さは0.12mである。

構 造 断面は舟底状で、壁は平坦な底面から緩やかに立ち上がる。

遺 物 遺物の出土はない。

時 期 覆土の状況を勘案すると縄文時代中期であろうと考えられる。

#### SK07 (第9図)

検出位置 調査区中央に位置し、近接してSK05や井戸跡としたSE06がある。

規 模 推定で長径0.72m、短径0.57m、深さ0.15mである。

構 造 平面形は、東西方向にやや長い楕円形である。断面形は鍋底状を呈し、壁は底面から明確な段をもたずに内湾気味に立ち上がる。

遺 物 底面直上の第2層中より加曾利E1式の細片1点が出土している。

時 期 覆土の状況、また細片であるものの出土土器より中期後葉と思われる。

#### SK09 (第10・13～15図)

検出位置 調査区中央やや南寄りに位置する。土坑の大半が東西の調査区外に延び、また先に述べたSK04を切る土坑である。

規 模 調査箇所における開口部径は推定で1.3m、底径1.5m、深さ0.6mである。

構 造 形状は開口部及び底径がほぼ円形、断面は側壁が直線的に立ち上がるフラスコ状である。底面は壁際から緩く傾斜し、中央部が若干窪む。

遺 物 縄文土器片224点、打製及び磨製石斧・石棒などの石器5点が出土しており、住居跡を含め今回の調査にて最も出土遺物が多い。掲載した土器は6点で、7は口縁が直線的に開く浅鉢形土器で、無文の外面には横方向の擦痕が顕著に残る。8は口縁に中空状の把手を配す深鉢形土器で、頸部以下を2本の太い隆帯によって区画する。地文に単節LRの縄文を施す。9は胴下半部が残る深鉢形土器で、地文に無節ℓの縄文を施す。底部には木葉痕が微かに残る。10は口縁に大型な中空状の把手を配すやはり大型な深鉢形土器で、2本一組の蒲鉾状の隆帯により文様を描く。地文に単節LRの縄文を施す。11も口縁に把手が配される深鉢形土器である。口縁部は2本一組の隆帯によって区画され、内部には「J」字や波状、また縦位に垂下する隆帯文が展開する。地文に単節RLの縄文を施す。12は平縁の深鉢形土器で、2本一組による口縁部の区画や内部の文様構成は11に近い。地文は単節のRLの縄文。13は安山岩製の石棒である。5～7か所の凹痕があり、また側面には敲

打痕が認められ、蜂の巣石への転用が考えられる。

時 期 出土土器には阿玉台Ⅲ式、加曾利 E 式、大木 8a 式の諸型式が含まれることから、中期前葉末から中期後葉の時期が与えられる。

#### SK10 (第 11・15 図)

検出位置 調査区南側に位置し、SK17 と重複関係にある。

規 模 SK17 に切られるため北側部分が不明となるが、開口部径及び底径がそれぞれ 1.3m と 2.3m 前後、深さ 0.53m のフラスコ状土坑である。

構 造 開口部及び底面形はほぼ円形と考えて問題なかろう。底面から延びる側壁は、底面から急角度にて直線的に立ち上がり、開口部付近にて段を有す。底面はほぼ平坦であるが、前述した SK09 と同様に中央部が僅かに窪む。覆土の堆積状況からは自然埋没でなく、人為的な埋め戻しが窺える。

遺 物 17 点の縄文土器片の他、剥片とした 3 点の石器が出土している。14 は瑪瑙製の剥片で、周囲には二次加工が認められる。

時 期 土坑の形状及び出土土器片の時期から中期中葉が相当であろう。

#### SK11 (第 10・14 図)

検出位置 調査区南側に位置し、北側に隣接して先に述べた SK10 が掘り込まれる。

規 模 調査箇所における開口部及び底面形状から推定すると、それぞれの長径は開口部で 1.85m、底面の長径は 2.6m 前後と判断される。深さは底面中央部までが 0.42m である。

構 造 開口部及び底面形は楕円形を呈すと考えられ、断面はオーバーハングが顕著な袋状である。底面は中央部が高く、壁際に近づくにしがって深く掘り込まれる。

遺 物 17 点の縄文土器片と共に礫が出土している。大型土器片を器形復元したものが 15 である。内傾する口縁がラップ上に開く深鉢形土器で、口縁直下には結節沈線を伴う「M」字状の隆帯を貼付する。器面は粗くやや不鮮明ではあるが、やや太い単節 RL の、また一部には複節と思われる RLR の縄文が施文される。

時 期 結節沈線を伴う隆帯が貼付されることから、阿玉台Ⅲ式の時期と考える。

#### SK12 (第 10 図)

検出位置 調査区南側隅に位置し、さらに南側には SK13 が掘り込まれる。

規 模 調査区外に延びると共に攪乱が存在することから、形状及び各計測値は不明である。唯一、計測が可能であった深さは 0.32m を測る。

構 造 平面形は楕円形ないしは隅丸方形、断面形は壁が垂直に近い逆台形であろうか。

遺 物 遺物の出土は皆無である。

時 期 覆土が中期中葉と判断した他の遺構と類似するため、本土坑も同一であろう。

#### SK13 (第 10・15 図)

検出位置 調査区南側隅に位置し、北側に近接して SK12 が掘り込まれる。

規 模 遺構の大半が調査区外に延びるため、形状及び各計測値は不明である。深さは 0.26m である。

構 造 開口部付近が後世の掘削により消滅している可能性が高いものの、底面付近の形状をから判断して袋状を呈する土坑であろう。

遺 物 縄文土器片 9 点と石器 3 点の出土がある。図示した 16 は口縁が「く」字状に外反する大型な土器で、おそらく器形は鉢型と思われる。口唇端部には指頭圧痕が連続し、胴部文様は横位の隆帯とそれに沿う沈線や重弧文である。地文は単節 RL の縄文で、内面のミガキが顕著、胎土中に金雲母を多量に含む。石器では 17 がチャート製の石核で、縁辺の 3 ヶ所に打点がある。18 は器面全体に研磨が施されており、磨製石斧の未成品と思われる。

時 期 16 に示された文様構成から大木 8a 式の時期と考える。

#### SK15 (第 11・16 図)

検出位置 調査区中央に位置し、北側には SE06 が、また南側には袋状を呈す SK04 が近接して掘り込まれる。

規 模 遺構の大半が調査区外に延びるため形状は不明確で、深さは 0.54m である。推定される形状から、

おそらく全体の 1/4 程度を調査したに過ぎないと思われる。

**構造** 調査箇所から判断して、開口部及び底面形状は楕円形で、断面形は底面付近で僅かにオーバーハングする袋状である。底面はほぼ平坦で、壁際に向かって緩く立ち上がり、側壁はハング部分をから垂直に開口部に至る。

**遺物** 18 点の縄文土器片が出土している。19 は小型深鉢形土器の胴下半部で、半載竹管による平行沈線にて文様を描く。内外面には丁寧なミガキを施す。

**時期** 19 の土器から構築時期は大木 8a 式期と考える。

### SK17 (第 11 図)

**検出位置** 調査区南側に位置し、袋状を呈す SK10 と重複関係にある。また、南側に SK11 が、北側に SK04・09 の袋状土坑が掘り込まれる。

**規模** 調査箇所より推定すると、開口部形状は円形と思われ、長径は約 1.7m、深さ 0.43m である。

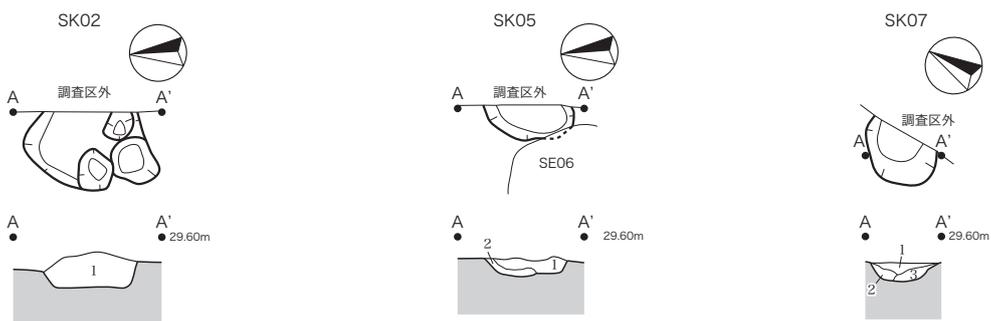
**構造** 平面形は円形、北壁はほぼ垂直に近く、南壁はピットや段差をもつ底面から開口部に向かって直線的に立ち上がる。

**遺物** 遺物の出土は皆無である。

**時期** 覆土の切り合い状況から、中期中葉とした SK10 より後出する土坑である。遺物の出土がなく、また覆土が 1 層の堆積である点や特異な形状など、縄文時代の遺構と判断するには疑問が残る。時期については不明としたい。

### ピット

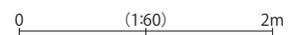
調査区内からは 13 基のピットが発見されており、その形状や大きさについては第 3 表に示した。これらの中には P11・P13 のように、SI03 の補助柱穴に相当するものも存在する。内部からは少量の縄文土器片の出土がみられたが、残念ながら図示できたものは SK06 が唯一である。13 基のピットについては、覆土の状況から判断してその大半が縄文時代に相当するものであろう。



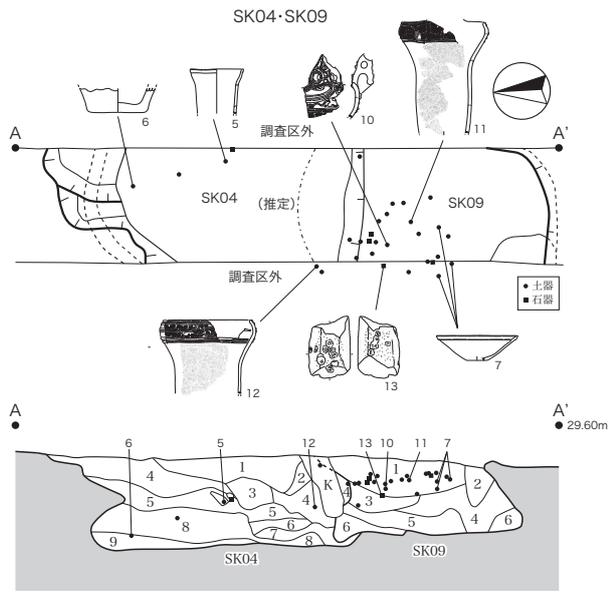
SK02  
1 10YR3/1 粘性強 締り強 φ 1～3mmの赤色スコリアを少量含む

SK05  
1 10YR3/1 粘性強 締り強 φ 2～3mmの赤色スコリアを少量含む φ 1mm以下の炭化物を微量に含む φ 40mmのロームブロックが 1 が所存在する  
2 10YR3/3 粘性強 締り強 スコリアを含まず φ 5～10mmの炭化物を微量に含む φ 10mm以下のローム粒を微量に含む

SK07  
1 10YR3/2 粘性強 締り強 スコリア含まず φ 1mm以下の炭化物を微量に含む  
2 10YR6/6 粘性強 締り強 スコリア・炭化物含まず  
3 10YR2/2 粘性強 締り強 スコリア・炭化物含まず φ 5～10mmのローム粒を層下部に微量に含む



第 9 図 2・5・7 号土坑

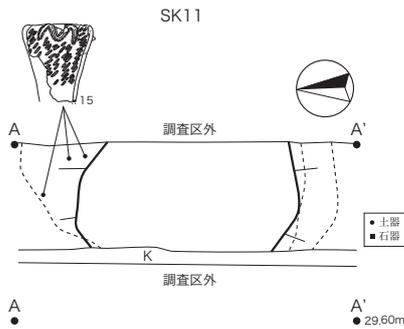


SK04

- 1 10YR3/2 粘性強 締り強 φ2~5mmの赤色スコリアを少量含む φ5~6mmの炭化物を微量に含む
- 2 10YR3/3 粘性強 締り強 スコリア含まず φ5~6mmの炭化物を少量含む
- 3 10YR3/4 粘性強 締り強 φ1~3mmの赤色スコリアを微量に含む φ3~5mmの炭化物を微量に含む φ3~20mmのローム粒を多量に含む
- 4 10YR3/3 粘性強 締り強 φ1~5mmの赤色スコリアを少量含む φ2~5mmの炭化物を少量含む φ2~10mmのローム粒を微量に含む
- 5 10YR2/3 粘性強 締り強 φ2~5mmの赤色スコリアを少量含む φ3~10mmの炭化物を少量含む φ2~10mmのローム粒を微量に含む φ20~30mmのロームブロックを微量に含む
- 6 10YR2/2 粘性強 締り弱 φ1~3mmの赤色スコリアを少量含む φ2~5mmの炭化物を少量含む φ2~3mmのローム粒を微量に含む
- 7 10YR2/2 粘性非常に強い 締り強 φ1~2mmの赤色スコリアを微量に含む φ2~5mmの炭化物を少量含む φ20mmのロームブロックが1ヶ所存在する
- 8 10YR2/2 粘性非常に強い 締り非常に強い φ2~5mmの赤色スコリアを少量含む φ2~5mmの炭化物をやや多く含む φ2~5mmのローム粒を多く含む(一部ブロック化している)
- 9 10YR3/2 粘性非常に強い 締り非常に強い スコリア・炭化物を含まない φ2~5mmのローム粒多量に含む

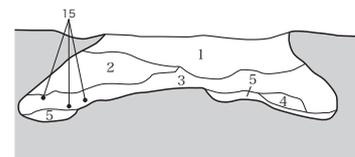
SK09

- 1 10YR3/1 粘性強 締り強 φ2~5mmの赤色スコリアを少量含む φ3~5mmの炭化物を微量に含む φ3~10mmのローム粒を少量含む
- 2 10YR3/2 粘性強 締り強 φ2~3mmの赤色スコリアを微量に含む φ3~5mmの炭化物を微量に含む φ5~10mmのローム粒を少量含む
- 3 10YR3/2 粘性強 締り強 φ1~3mmの赤色スコリアを微量に含む φ2~5mmの炭化物を微量に含む φ5~8mmのローム粒を少量含む
- 4 10YR2/2 粘性強 締り強 φ1~3mmの赤色スコリアを少量含む φ2~5mmの炭化物を少量含む φ2~10mmのローム粒を少量含む
- 5 10YR3/3 粘性強 締り強 φ1~3mmの赤色スコリアを微量に含む φ1~3mmの炭化物を微量に含む φ3~5mmのローム粒を少量含む φ20~100mmのロームブロック少量含む
- 6 10YR3/3 粘性非常に強い 締り強い スコリアを含まない φ1~3mmの炭化物を微量に含む φ3~5mmのローム粒を微量に含む φ200mm程のロームブロックを多量に含む

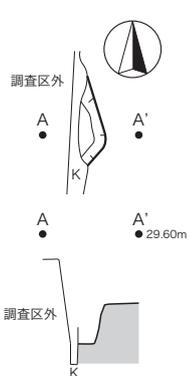


SK11

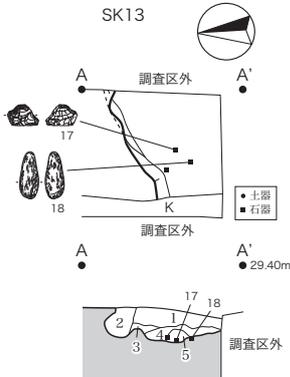
- 1 10YR3/1 粘性強 締り強 φ2~8mmの赤色スコリアをやや多く含む φ2~5mmの白色スコリアを少量含む φ5~10mmのローム粒を微量に含む φ20mm程のロームブロックを微量に含む
- 2 10YR3/2 粘性強 締りやや強 φ2~5mmの赤色スコリアを多量に含む φ30~50mmのロームブロックを多量に含む
- 3 10YR2/1 粘性非常に強い 締り強 φ2~5mmの赤色スコリアを多量に含む φ20~50mmのロームブロックを微量に含む
- 4 10YR2/2 粘性強 締り強 φ2~5mmの赤色スコリアを多量に含む
- 5 10YR7/6 粘性非常に強い 締り非常に強い ローム中心の層3層が混入する



SK12



SK13

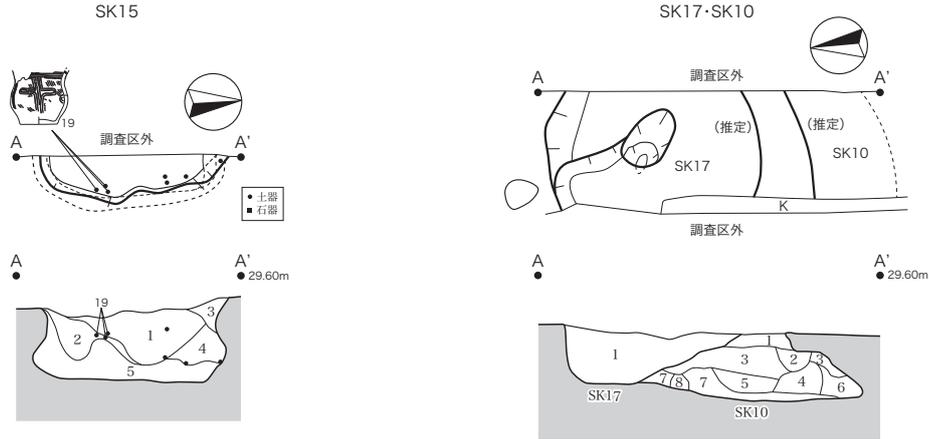


SK13

- 1 10YR3/1 粘性強 締り強 φ1~3mmの赤色スコリアを微量に含む φ20~100mmのロームブロックを多量に含む
- 2 10YR2/2 粘性強 締り強 φ1~3mmの赤色スコリアを微量に含む
- 3 10YR3/1 粘性強 締り強 φ1~5mmの赤色スコリアを微量に含む
- 4 10YR3/3 粘性強 締り強 赤色スコリア・ロームブロックを含まない
- 5 10YR3/1 粘性強 締り強 φ1~5mmの赤色スコリアを微量に含む

0 (1:60) 2m

第10図 4・9・11・12・13号土坑



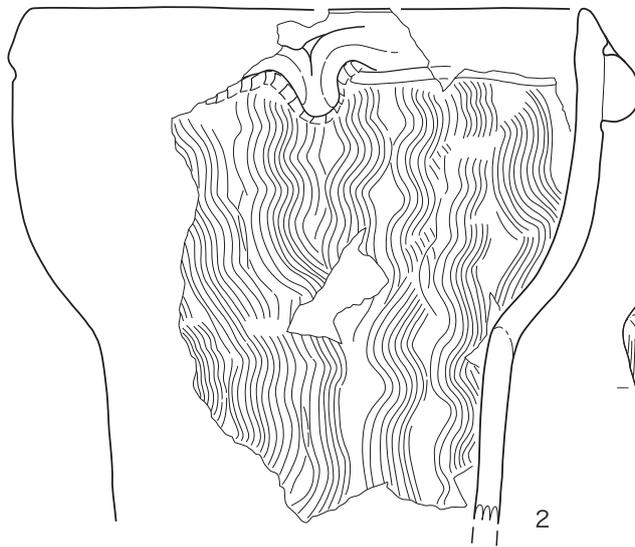
- SK15
- 1 10YR3/3 粘性強 締り強 φ 2～5mmの赤色スコリアを少量含む φ 2mm程の炭化物を微量に含む φ 2mm程のローム粒をやや多量に含む
  - 2 10YR3/2 粘性強 締り強 φ 1～5mmの赤色スコリアを多量に含む φ 1～2mmの炭化物を微量に含む φ 5～20mmのロームブロックを微量に含む
  - 3 10YR4/3 粘性強 締り強 φ 1～3mmの赤色スコリアを微量に含む φ 3～5mm炭化物を微量に含む φ 30～100mmのロームブロックを多量に含む
  - 4 10YR2/2 粘性強 締り強 φ 3～5mmの赤色スコリアを微量に含む φ 1～2mmの炭化物を微量に含む
  - 5 10YR2/1 粘性強 締り非常に強い φ 20～100mmのロームブロック混入

- SK17
- 1 10YR4/3 粘性強 締り強 φ 1mm程の赤色スコリアを微量に含む φ 1～3mmの炭化物を微量に含む φ 50～100mmのロームブロック微量に含む
- SK10
- 1 10YR7/6 粘性強 締り強 スコリア・炭化物を含まない
  - 2 10YR8/6 粘性強 締り弱 樹木の根による擾乱
  - 3 10YR3/2 粘性強 締り強 スコリア含まず φ 2～5mmの炭化物を微量に含む φ 2～150mmのロームブロックを少量含む
  - 4 10YR4/2 粘性強 締りやや強 スコリア含まず φ 1～5mmの炭化物を微量に含む φ 5～10mmのロームブロックを少量含む
  - 5 10YR3/2 粘性強 締り弱 φ 2～3mmの赤色スコリアを微量に含む φ 30～50mmのロームブロックを少量含む
  - 6 10YR3/3 粘性強 締り弱 φ 40～70mmのロームブロックを多量に含む
  - 7 10YR3/4 粘性強 締りやや強 φ 3～5mmの赤色スコリアを少量含む
  - 8 地山 (掘りすぎ)

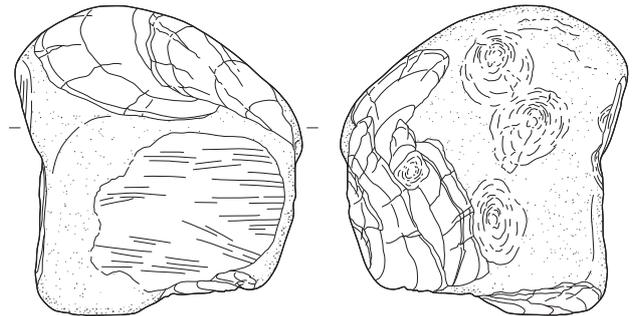
0 (1:60) 2m

第11図 10・15・17号土坑

SK02



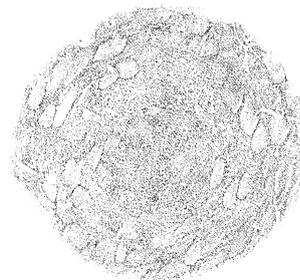
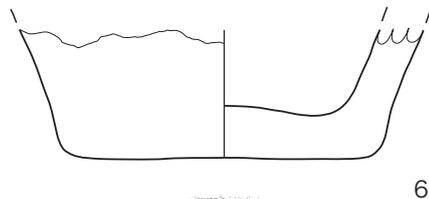
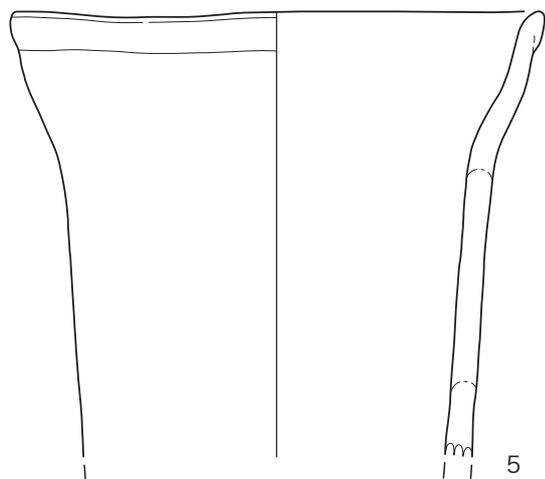
SK04



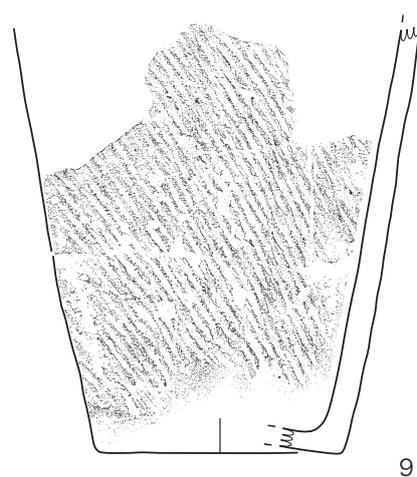
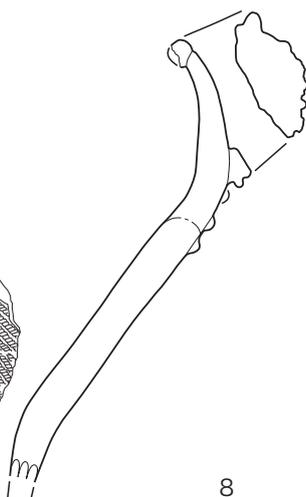
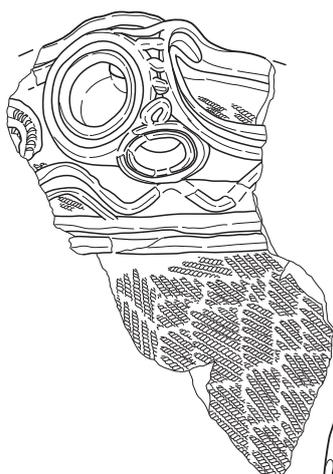
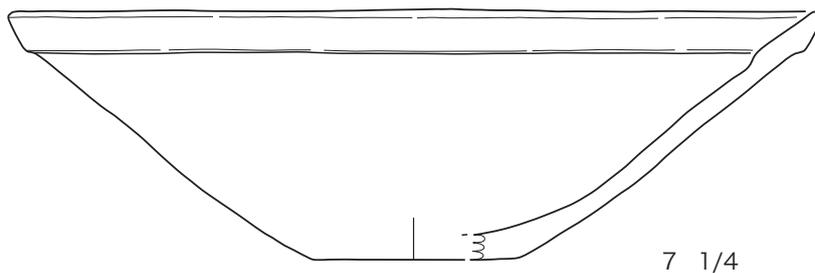
4

第12図 土坑出土遺物1 (SK02・SK04)

SK04



SK09

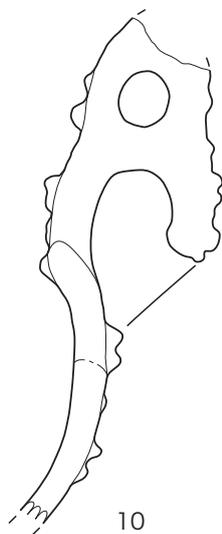


0 (1:3) 10cm

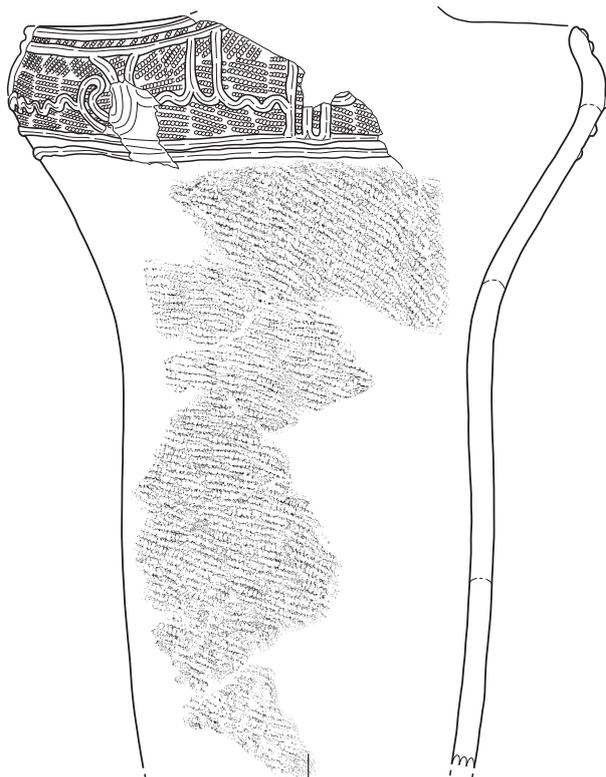
0 (1:4) 10cm

第 13 图 土坑出土遺物 2 (SK04 · SK09)

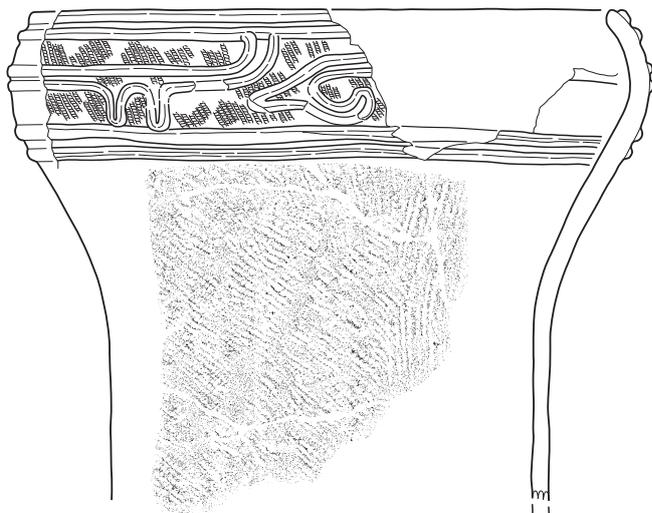
SK09



10

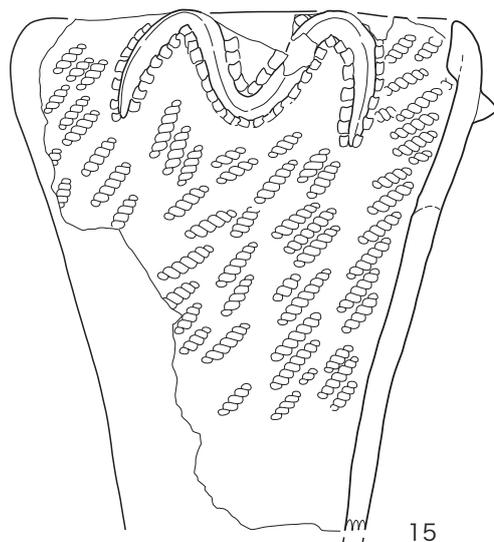


11 1/4



12 1/4

SK11



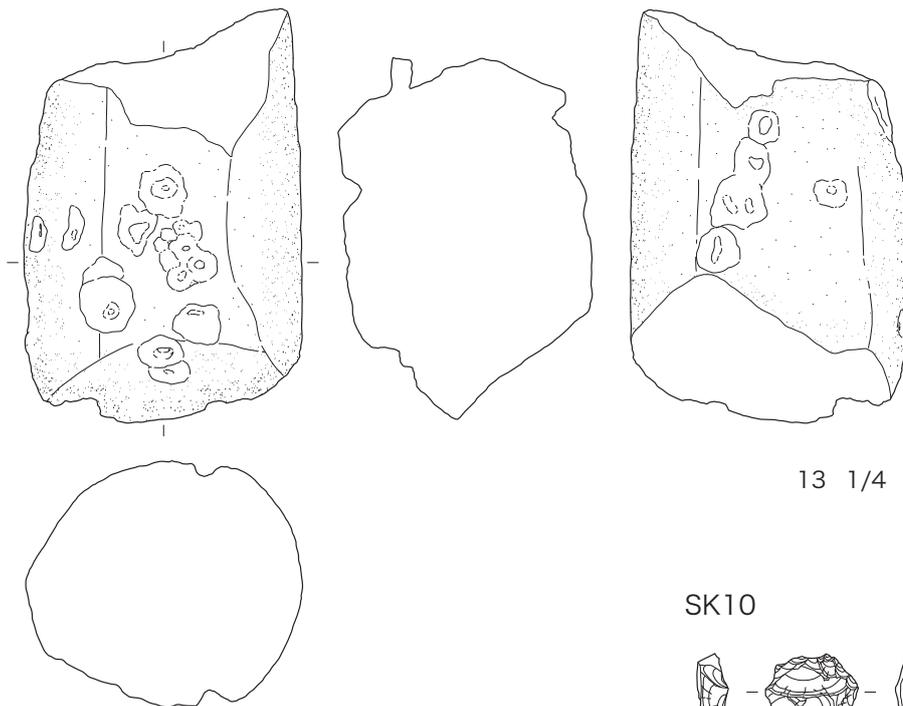
15

0 (1:3) 10cm

0 (1:4) 10cm

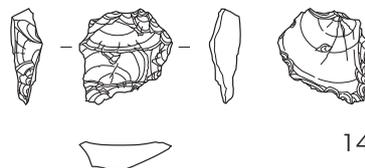
第 14 图 土坑出土遺物 3 (SK09 · SK11)

SK09



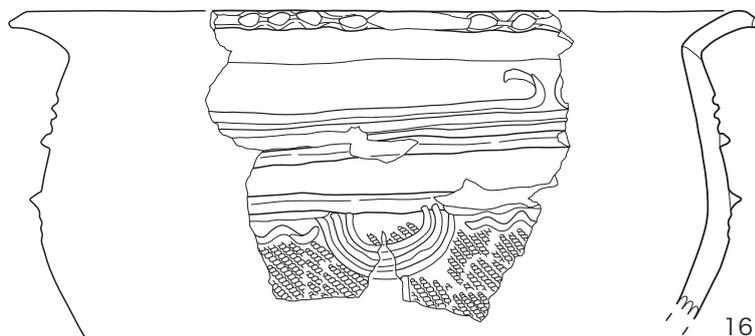
13 1/4

SK10

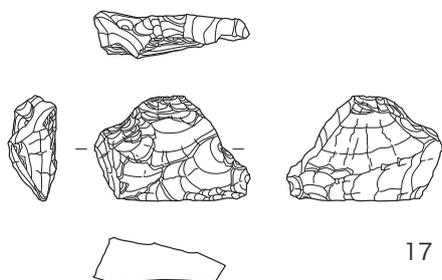


14

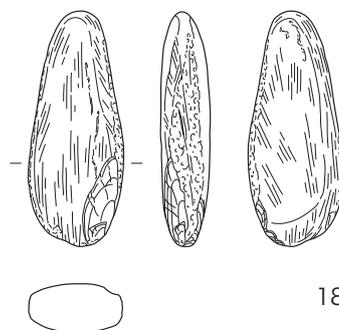
SK13



16

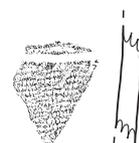


17



18

P06



20

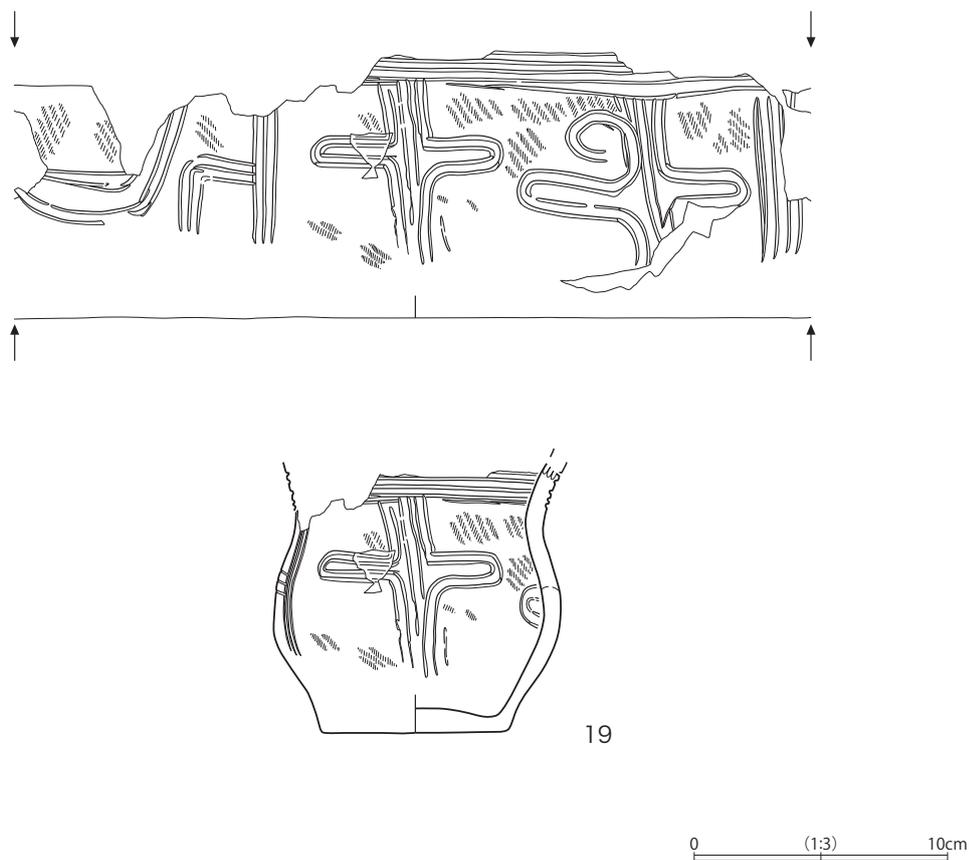
0 (1:2) 5cm

0 (1:3) 10cm

0 (1:4) 10cm

第 15 図 土坑出土遺物 4 (SK09・SK10・SK13・P06)

SK15



第 16 図 土坑出土遺物 5 (SK15)

第 3 表 ピット観察表

遺構 番号	確認面	平面形態	断面形態	長径 (cm)	短径 (cm)	確認面から の深さ (cm)	底面標高	出土遺物	備考
P01	ソフトローム層	円形	不定形	33	32	14	29.25	-	
P02	ソフトローム層	不整形	逆台形	24	21	6	29.32	-	
P03	ソフトローム層	楕円形	U 字状	28	22	18	29.22	-	
P04	ソフトローム層	楕円形	U 字状	25	(19)	17	29.21	-	
P05	ソフトローム層	不整楕円形	U 字状	52	42	19	29.12	-	
P06	ソフトローム層	不整楕円形	箱状	47	36	40	28.98	20	第 4・6 表, 第 15 図
P07	ソフトローム層	不整円形	弧状	30	27	12	29.25	-	
P08	ソフトローム層	不整楕円形	逆台形	(29)	(24)	11	29.25	-	
P09	ソフトローム層	不整楕円形	V 字状	27	21	(74)	28.46	-	
P10	ソフトローム層	楕円形	V 字状	34	31	(100)	28.21	-	SI03 の補助柱穴
P11	ソフトローム層	楕円形	箱状	25	20	31	29.06	-	
P12	ソフトローム層	不整楕円形	V 字状	39	30	(53)	28.37	-	SI03 の補助柱穴
P13	ソフトローム層	不明	弧状	(83)	-	19	28.72	-	

第4表 縄文時代土器計測・観察表

図版番号	出土地点	器種	部位・残存値	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	①文様等 ②胎土 ③色調 ④焼成	時期
1	SI01	深鉢	口縁部片	-	-	(6.8)	①波状口縁。口唇部に隆帯をもつ。口縁部は隆帯による文様を施す。内面は丁寧な磨きを施す。②長石・石英・雲母少量。③7.5YR5/4にぶい褐④良好	加曽利 E1
2	SK02	深鉢	口縁部 1/3	(21.4)	-	(20.6)	①平縁口縁カ。口唇部より垂下する「Y」字状の隆帯の貼り付けがある。櫛状工具により蛇行する条線が施される。②長石・石英少量。金雲母多量。③10YR4/3にぶい黄褐④良好	阿玉台Ⅲ
5	SK04	深鉢	口縁部 1/2	(20.7)	-	(18.0)	①平縁口縁。残存部は無紋。外面摩擦激しい。②長石・石英中量。雲母少量。③5YR6/4にぶい橙④良好	大木 8a
6	SK04	深鉢	底部	-	12.6	(6.0)	①微妙に網代痕が残る。②長石・石英・雲母少量。③7.5YR6/4にぶい橙④良好	阿玉台Ⅲ
7	SK09	浅鉢	1/3 残存	(42.6)	(10.8)	13.2	平縁口縁。残存部は無紋。内外面丁寧な磨きが施されている。②長石・石英多量。雲母少量。③7.5YR6/4にぶい橙④良好	阿玉台Ⅲ
8	SK09	深鉢	口縁～胴部片	-	-	(17.8)	波状口縁。口縁部にリング状の把手をもつ。頸部に隆帯を施す。残存する胴部の一部に単節LRの地文を施す。②長石・石英・雲母少量。③5YR6/6橙④良好	加曽利 E
9	SK09	深鉢	底部～胴部 1/3	-	9.5	(17.1)	木葉痕微妙に残る。無節の地文を施す。②長石・石英・雲母少量。③5YR6/6橙④良好	大木 8a
10	SK09	深鉢	口縁～胴部片	-	-	(19.8)	①波状口縁。口縁部にリング状の把手をもつ。頸部に隆帯を施す。残存する胴部に単節LRの地文を施す。②長石・石英・雲母少量。③5YR6/6橙④良好	大木 8a
11	SK09	深鉢	口縁部・胴部 1/2	(28.9)	-	(41.7)	①波状口縁。口唇部に粘土帯を貼る。口縁部から頸部にかけて、小波状文の隆帯をもつ。頸部から胴部まで単節RLの地文を施す。口縁内部に丁寧な磨きが施される。②長石・石英・雲母少量。③10YR6/2灰黄褐④良好	大木 8a
12	SK09	深鉢	口縁部 1/3	(29.8)	-	(26.0)	①平縁口縁。口縁部の文様は二重の隆帯により区分され、その中に隆帯により文様が施される。胴部は単節RLの地文を施す。②長石・石英・雲母少量。③7.5YR7/4にぶい橙④良好	大木 8a
15	SK11	深鉢	口縁～胴部 1/3	(16.8)	-	(20.5)	①平縁口縁。口縁部に波状の隆帯を巡らす。胴部に単節LR、一部に複節RLRの地文を施す。②長石・石英・雲母少量。③7.5YR6/4にぶい橙④良好	阿玉台Ⅲ
16	SK13	鉢	口縁部 1/3	(28.4)	-	(12.8)	①口縁部が外側に開く。また口唇部のキザミ目は粘土帯を貼り付け調整している。二本の隆帯により上下を区分し、上部に三本の沈線が施す。地文は単節RL。その後三本の連弧文と波状の沈線が施されている。内面は丁寧な磨きが施されている。②長石・石英少量。金雲母多量。③10YR5/3にぶい黄褐④良好	大木 8a
19	SK15	深鉢	胴下半部	-	7.4	(10.8)	①側面に四分割した描線が施されている。内外面とも丁寧な磨きが施されている。②長石・石英・雲母少量。③7.5YR7/4にぶい橙④良好	大木 8a
20	P06	深鉢	胴部片	-	-	(4.8)	①単節RLの地文を施す。②長石・石英・雲母少量。③10YR5/3にぶい黄褐④良好	阿玉台Ⅲ

第5表 縄文時代石器計測・観察表

図版番号	出土地点	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
3	SI03	打製石斧	[8.70]	3.80	1.18	40.00	片岩	平面平坦剥離、裏面側縁からの階段状剥離。刃部欠損。
4	SK04	凹石・砥石	7.56	8.20	5.45	419.51	砂質片岩	正面4か所の凹痕、裏面平坦な底面。
13	SK09	石棒	[22.10]	14.73	14.55	5110.00	安山岩	正面・裏面に5から7か所の凹が、側面には敲打痕が認められる。石棒の蜂の巣石への転用品か。
14	SK10	リタッチドフレイク	2.50	2.41	0.80	4.05	瑪瑙	周縁部に細かな二次加工。
17	SK13	石核	2.73	4.12	1.29	13.59	チャート	正面上方から剥離、90度程度転移して右方向からの剥離、裏面上方からの剥離。
18	SK13	磨製石斧未成品	6.20	2.50	1.30	31.94	砂岩	両面を研磨、側縁縁敲打、表面右縁下部に剥離。

第6表 出土遺物集計表

出土地点	出土遺物		縄文			古墳			不明			総計		
			破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計			
SI01	縄文土器	阿玉台Ⅲ式	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	
		阿玉台Ⅳ式	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	
		大木 8a 式	深鉢	7	0	7	0	0	0	0	0	0	7	
		大木 8b 式	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	
		加曾利 E1 式	深鉢	5	0	5	0	0	0	0	0	0	5	
		加曾利 E2 式	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	
		中期中葉	深鉢	13	0	13	0	0	0	0	0	0	0	13
			浅鉢	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	4
		中期後半	深鉢	10	0	10	0	0	0	0	0	0	0	10
		中期	深鉢	53	0	53	0	0	0	0	0	0	0	53
		浅鉢	6	0	6	0	0	0	0	0	0	0	6	
	中期か	浅鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
	石器	磨石か	石英斑岩	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
石・礫		雲母片岩	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
		砂岩	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
		石英斑岩	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
		粘板岩	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
SK02	縄文土器	阿玉台Ⅲ式	深鉢	0	2	2	0	0	0	0	0	0	2	
		大木 8a 式	深鉢	2	0	2	0	0	0	0	0	0	2	
		大木 8b 式	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	
		中期中葉	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
			浅鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	石器	剥片	石灰岩	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	
SI03	縄文土器	阿玉台Ⅱ式	深鉢	4	0	4	0	0	0	0	0	0	4	
		阿玉台Ⅲ式	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	
		阿玉台式	深鉢	4	0	4	0	0	0	0	0	0	4	
		大木 8a 式	深鉢	10	0	10	0	0	0	0	0	0	10	
		大木 8b 式	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	
		中峠併行か	浅鉢	6	0	6	0	0	0	0	0	0	6	
		加曾利 E2 式	深鉢	9	0	9	0	0	0	0	0	0	9	
		中期中葉	深鉢	22	0	22	0	0	0	0	0	0	0	22
			浅鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
		中期後半	深鉢	21	0	21	0	0	0	0	0	0	0	21
			浅鉢	29	0	29	0	0	0	0	0	0	0	29
		中期	深鉢	8	0	8	0	0	0	0	0	0	0	8
			浅鉢	12	0	12	0	0	0	0	0	0	0	12
			鉢形	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	中期か	深鉢	30	0	30	0	0	0	0	0	0	0	30	
		浅鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
		鉢形	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
	土製品	加曾利 E2 式	土製円板	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	
		大木 8a 式	土製円板	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	
	石器	打製石斧	粘板岩?	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	
		打製石斧	片岩	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	
	土師器		坏	0	0	0	3	0	3	0	0	0	3	
			甕	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	
	石・礫		安山岩	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	
			軽石	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	
			砂岩	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	
		石英	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1		
		石英斑岩	0	0	0	0	0	0	1	1	2	2		
		粘板岩	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1		
SK04	縄文土器	阿玉台Ⅱ式	深鉢	18	0	18	0	0	0	0	0	0	18	
		阿玉台Ⅲ式	深鉢	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	
		阿玉台Ⅳ式	深鉢	12	0	12	0	0	0	0	0	0	12	
		阿玉台式	深鉢	20	2	22	0	0	0	0	0	0	22	
			浅鉢	5	0	5	0	0	0	0	0	0	5	
		大木 7b 式	深鉢	2	0	2	0	0	0	0	0	0	2	
		大木 8a 式	深鉢	4	1	5	0	0	0	0	0	0	5	

出土地点	出土遺物		縄文			古墳			不明			総計	
			破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計		
SK04	縄文土器	大木 8b 式	深鉢	5	0	5	0	0	0	0	0	0	5
		加曾利 E2 式	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1
		中期中葉	深鉢	56	0	56	0	0	0	0	0	0	56
		中期中葉	浅鉢	8	0	8	0	0	0	0	0	0	8
		中期後半	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1
		中期	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1
		中期	浅鉢	7	0	7	0	0	0	0	0	0	7
	石器	凹石	ホルンフェルス?	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1
		凹石・砥石	砂質片岩	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1
		使用痕ある剥片	黒曜石	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1
	石・礫		砂岩	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
			石英斑岩	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
			流紋岩	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
SE06	縄文土器	大木 8a 式	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1
		大木 8b 式	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1
		中期中葉	小形深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1
			深鉢	5	0	5	0	0	0	0	0	0	5
	石・礫	加工石・礫	頁岩	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
			チャート	0	0	0	0	0	0	0	4	4	4
			砂岩	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
		泥岩	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	
SK07	縄文土器	加曾利 E1 式	浅鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1
SK09	縄文土器	阿玉台 Ib 式	深鉢	2	0	2	0	0	0	0	0	0	2
		阿玉台 II 式	深鉢	6	0	6	0	0	0	0	0	0	6
		阿玉台 III 式	浅鉢	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1
		阿玉台式	深鉢	26	0	26	0	0	0	0	0	0	26
			浅鉢	16	0	16	0	0	0	0	0	0	16
		大木 7b 式	深鉢	6	0	6	0	0	0	0	0	0	6
		大木 8a 式	深鉢	28	4	32	0	0	0	0	0	0	32
		加曾利 E 式	深鉢	2	0	2	0	0	0	0	0	0	2
		中峠式	深鉢	9	0	9	0	0	0	0	0	0	9
		中期中葉	深鉢	111	2	113	0	0	0	0	0	0	113
			浅鉢	2	0	2	0	0	0	0	0	0	2
		中期	深鉢	3	0	3	0	0	0	0	0	0	3
			浅鉢	6	1	7	0	0	0	0	0	0	7
		中期か	深鉢	7	0	7	0	0	0	0	0	0	7
	石器	凹石 (石棒転用)	石英斑岩	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1
		打製石斧	粘板岩	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1
		磨製石斧	ホルンフェルス	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1
			凝灰岩	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1
	石・礫	石棒	安山岩	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1
		焼石・礫	石英斑岩	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1
			チャート	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
凝灰岩			0	0	0	0	0	0	1	1	2	2	
砂岩			0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	
	閃緑岩	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1		
	泥岩	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1		
SK10	縄文土器	阿玉台 II 式	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1
		阿玉台式	深鉢	3	0	3	0	0	0	0	0	0	3
		大木 7b 式	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1
		大木 8a 式	深鉢	3	0	3	0	0	0	0	0	0	3
		中峠式	深鉢	2	0	2	0	0	0	0	0	0	2
		中期中葉	深鉢	6	0	6	0	0	0	0	0	0	6
	中期後半	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	
	石器	二次加工ある剥片	チャート?	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1
		剥片	粘板岩	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	石・礫		リタッチドフレイク	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1
		チャート	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	
		ホルンフェルス	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	

出土地点	出土遺物		縄文			古墳			不明			総計	
			破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計		
SK11	縄文土器	阿玉台Ib式	深鉢	2	0	2	0	0	0	0	0	0	2
		阿玉台II式	深鉢	6	0	6	0	0	0	0	0	0	6
		阿玉台III式	深鉢	0	2	2	0	0	0	0	0	0	2
		阿玉台式	深鉢	14	0	14	0	0	0	0	0	0	14
			浅鉢	2	0	2	0	0	0	0	0	0	2
		大木7b式	深鉢	4	0	4	0	0	0	0	0	0	4
		大木8a式	深鉢	3	0	3	0	0	0	0	0	0	3
		大木8b式	深鉢	4	0	4	0	0	0	0	0	0	4
	中期中葉	深鉢	13	0	13	0	0	0	0	0	0	13	
	石・礫		チャート	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
		泥岩	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	
		頁岩	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	
SK13	縄文土器	阿玉台III式	鉢	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1
		阿玉台式	深鉢	3	0	3	0	0	0	0	0	0	3
		大木7b式	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1
		大木8a式	深鉢	3	0	3	0	0	0	0	0	0	3
		中期中葉	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	石器	二次加工ある剥片	チャート	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1
			チャート?	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1
		小形磨石?	砂岩?	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1
		石核	チャート	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1
		磨製石斧未成品	砂岩	1	1	2	0	0	0	0	0	0	2
石・礫		石英斑岩	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	
SK15	縄文土器	阿玉台II式	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1
		阿玉台式	深鉢	2	0	2	0	0	0	0	0	0	2
		大木8a式	小形深鉢	0	2	2	0	0	0	0	0	0	2
		中期中葉	深鉢	7	0	7	0	0	0	0	0	0	7
		中期後半	深鉢	3	0	3	0	0	0	0	0	0	3
		中期	小形深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1
		中期か	小形深鉢	2	0	2	0	0	0	0	0	0	2
	土師器		甕	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1
	石・礫		チャート	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
			砂岩	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
		頁岩	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	
SI16	縄文土器	阿玉台式	器台	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1
		大木7b式	深鉢	9	0	9	0	0	0	0	0	0	9
		中期中葉	深鉢	5	0	5	0	0	0	0	0	0	5
		中期	深鉢	2	0	2	0	0	0	0	0	0	2
			浅鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	中期か	粘土塊	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	
	石・礫		チャート	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2
P05	縄文土器	中期中葉	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	1	
P06	縄文土器	阿玉台III式	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	1	
		大木8a式	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	1	
攪乱	縄文土器	中期後半	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	1	
表土	縄文土器	中期	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	1	
		中期後半	深鉢	5	0	5	0	0	0	0	0	5	
総計				768	42	810	5	0	5	8	29	37	852

## IV 総括

### 1 集落の形態と袋状土坑

今回の調査は面積が狭小なため遺跡の詳細な性格は把握できない状況である。ただ、この狭小な条件の中、いくつかの成果を見ることができた。

今回、竪穴住居跡3軒、土坑11基、井戸跡1基を検出している。井戸跡とSK17を除き全て縄文時代中期の遺構と考えて問題ないであろう。

遺構の検出状況は、調査区北側と南側では様相を異にしていた。北側では竪穴住居跡がまとまって検出され、南側では土坑がまとまって検出された。今回の調査地点に隣接する東側の宅地造成に伴う調査の際、今回調査と同時期の多数の土坑が検出されている。この様に狭小な調査区において、北側と南側で検出された遺構の種類が異なっているのは、若林遺跡では住居空間と、それに伴う土坑群の境界線を示す資料と考えられ、遺跡の住居空間は今回の調査区の北側、土坑はその南側と東側で展開していたと考えられる。

今回検出したSK04, SK09, SK10, SK11, SK13, SK15は袋状又はフラスコ状の断面形を呈する土坑である。これらの土坑からは大木8a式、阿玉台Ⅲ式、加曽利E式の土器が出土している。この出土遺物から、若林遺跡の土坑は縄文中期前葉から後葉にかけてのものと考えられる。本遺跡の西側に所在する高天原遺跡、坏遺跡でも袋状土坑が多数検出されている。高天原遺跡の袋状土坑から出土した土器は大木8a式土器で、今回の若林遺跡でも同時期の土坑である。

坏遺跡の第3地点の調査報告書では、東側にこの袋状土坑がまとまって検出されていることが述べられている。また、調査区の東側において北と南へ広がり、全体の分布では環状を呈することが述べられている。この報告書の中では中心部が住居跡であるとは述べられていないが、今回の若林遺跡の住居跡の回りに袋状土坑が廻る状況が似ている。これが見和地区の縄文中期の特徴であろう。

### 2 作成集団の土木技術

本遺跡の袋状土坑は、ソフトローム層よりオーバーハング部分の掘り込みが開始されている。当調査の検出面がソフトローム層であることから当然のことではあるが、坏遺跡の袋状土坑も同様にソフトローム層でオーバーハング部分の掘り込みが開始されている。その中で、坏遺跡第3地点において検出されたSK-19の事例をあげる。この土坑は調査区壁面を利用し土層観察がされており、土坑入口（上端）はローム漸移層より掘り込みが開始され、ソフトローム層に到達してからオーバーハング部分の掘り込みが開始されている。

袋状土坑においてこの掘り込みは、ソフトローム層に到達してから行なえば、天井部分の崩落に耐えられる事がわかっていたと思われる。この事は、土の種類がわかり、天井部分の崩落に耐えられる構造がわかる技術者がいた一例だと考える。

先にも述べたが、今回の調査面積は非常に狭小で、当調査に於いて若林遺跡全体像をつかむことは到底できない。当調査区の近隣及び遺跡全体の調査が進めば、この地区の縄文時代中期の様相がわかると思う。その全体像をつかむため、この調査においてわずかながらの成果を上げられたことは幸いである。

引用・参考文献

- 伊藤千洋・高野恒一・渥美賢吾・額賀大輔編  
伊東重敏  
井上義安  
井上義安・鈴木浩子  
小川将之編  
金子 進  
川口武彦・渥美賢吾編  
川口武彦・色川順子編  
川口武彦・色川順子編  
川口武彦・色川順子・田中恭子・三浦健太編  
齋藤和浩  
関口慶久・林 邦雄編  
高野浩之・米川暢敬編  
外山泰久  
林 邦夫・渥美賢吾編  
三輪孝幸編
- 2012 『坏遺跡（第 16 地点）—宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』  
水戸市教育委員会
- 1974 「I 解説 2 主要遺跡 3 赤塚古墳群」『茨城県史料 考古資料編 古墳時代』  
茨城県
- 1985 『高天原 水戸市河和田町地内団地造成工事に伴う古墳および住居址・土壙  
の発掘調査記録』水戸市高天原古墳発掘調査会
- 1996 『水戸市坏遺跡 共同住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市教  
育委員会・株木建設株式会社
- 2007 『坏遺跡（第 3 地点）—ヴィヴァンコート赤塚建設工事に伴う埋蔵文化財  
発掘調査報告書—』水戸市教育委員会
- 1973 「水戸市周辺発見の先土器時代石器群」『茨城考古学』5
- 2007 『平成 17 年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 2009 『平成 18 年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 2010 『平成 19 年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 2011 『平成 20 年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 2011 『堀町西古墳 一般県道真端水戸線道路改良事業地内埋蔵文化財調査報告  
書』茨城県水戸土木事務所・財団法人茨城県教育財団
- 2009 『若林遺跡（第 1 地点） 宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』  
水戸市教育委員会
- 2011 『赤塚遺跡（第 5 地点） 河和田住宅建て替え事業（第 5 期）に伴う埋蔵文  
化財発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 1983 『常陸赤塚—国道 50 号水戸バイパス道路建設工事に伴う発掘調査—』国道  
50 号水戸バイパス埋蔵文化財発掘調査会
- 2012 『若林遺跡（第 2-2 地点・第 4 地点）—共同住宅新築工事に伴う埋蔵文化  
財発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 2007 『坏遺跡（第 4 地点）—プランタンコリーヌ II 建設工事に伴う埋蔵文化財  
発掘調査報告書—』水戸市教育委員会



# 写真図版





調査区完掘全景（北から）



基本土層（南から）



SI01 完掘状況（南から）



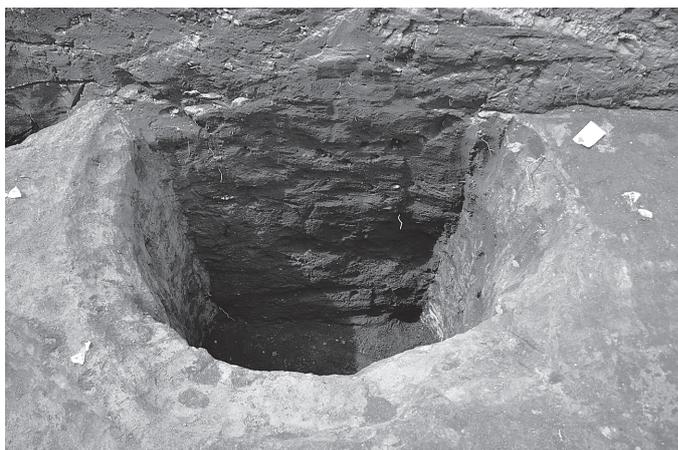
SI16 完掘状況（南から）



SI16 土層断面（東から）



SI03・SI16 完掘状況（南から）



SE06 完掘状況（東から）



SK04・SK09 完掘状況（南から）



SK04・SK09 土層断面（西から）



SK09 遺物出土状況 1（南から）



SK09 遺物出土状況 2（南から）



SK09 遺物出土状況 3（南から）



SK09 遺物出土状況 4（西から）



SK10・SK17 完掘状況 (南から)



SK10・SK17 土層断面 (西から)



SK11 完掘状況 (南から)



SK11 土層断面 (西から)



SK13 完掘状況 (南から)



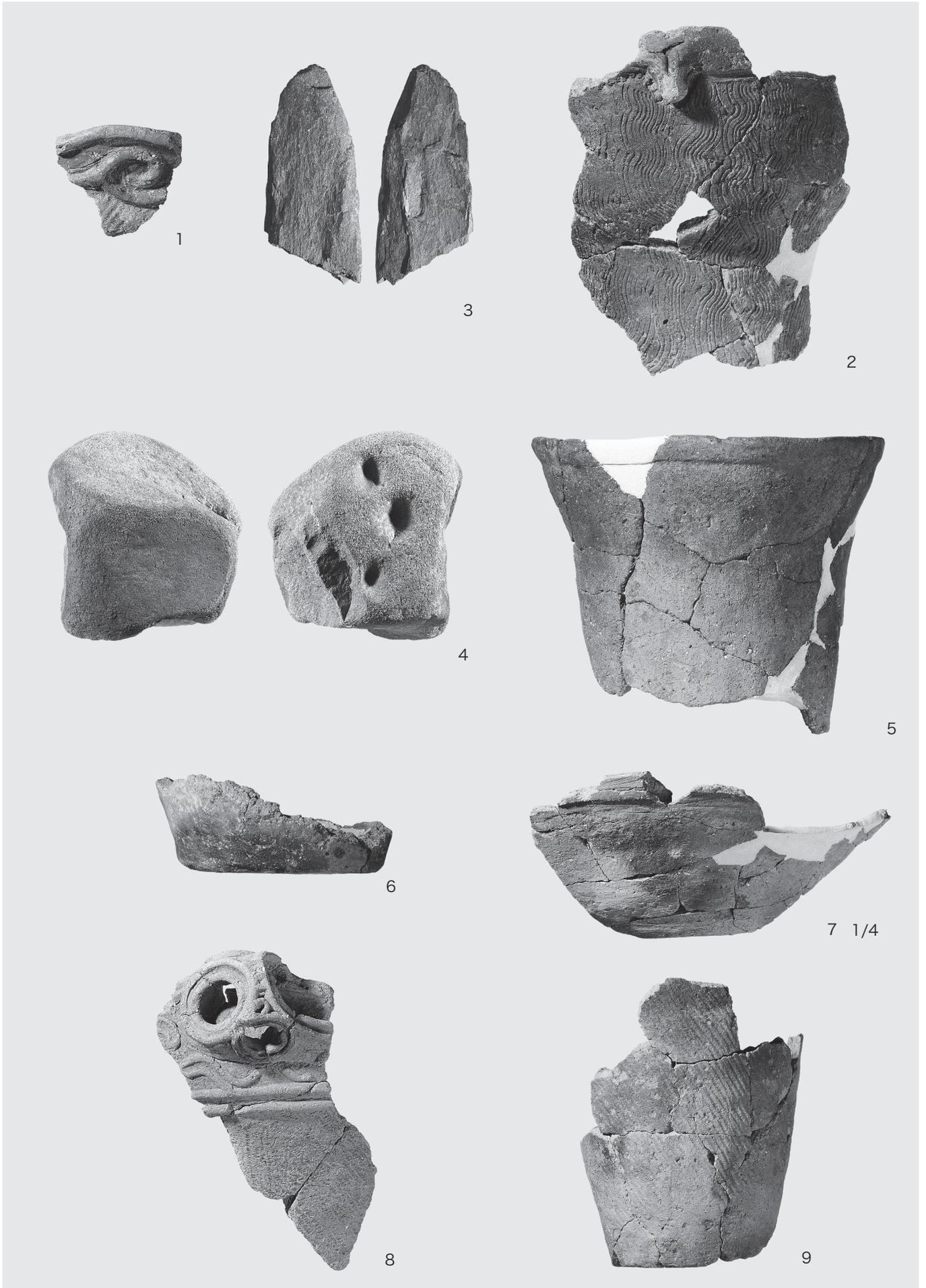
SK13 土層断面 (西から)



SK15 完掘状況 (西から)



SK15 土層断面 (東から)



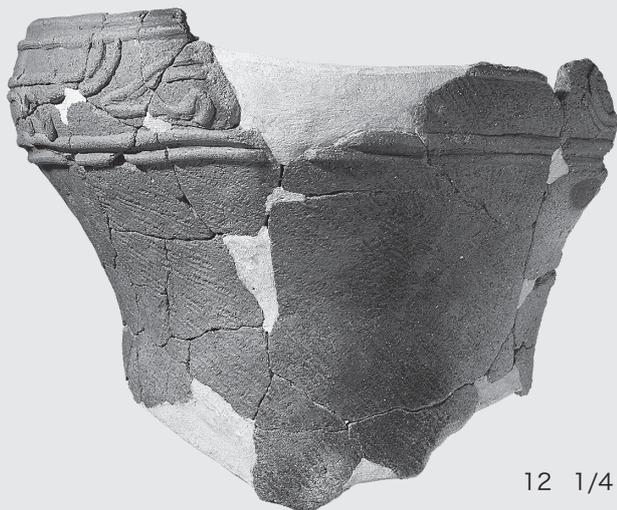
出土遺物 (1)



10



11 1/4



12 1/4



13 1/4



14



15



16



17



18



19



20

# 報告書抄録

ふりがな	わかばやしせいせき							
書名	若林遺跡（第8地点）							
副書名	公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	水戸市埋蔵文化財調査報告第73集							
編集者名	米川暢敬・池田公一							
著者名	米川暢敬・池田公一							
編集・発行機関	水戸市教育委員会	所在地	〒310-8610 茨城県水戸市中央1-4-1 ☎029-224-1111（代）					
発行年月日	2013（平成25）年3月29日							
ふりがな 所収遺跡名	しょうげいち 所在地	コード		北緯 °'〃	東経 °'〃	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡 番号					
わかばやしせいせき 若林遺跡 (第8地点)	みとしみわ 水戸市見和3丁目1393 -7番地先～同1393-8番 地先	08201	016	36° 22' 16"	140° 25' 22"	2012/08/20 ～ 2012/09/05	32.0	公共下水道新設工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
若林遺跡 (第8地点)	集落跡	縄文中期	竪穴住居跡3 土坑11 ピット13		深鉢, 浅鉢, 石棒 砥石, 打製石斧, 石核, 磨石		狭小な調査範囲にも関わらず, 多大の成果を得ることができた。調査区東側に隣接する宅地造成に伴う調査では多数の土坑が検出されている。 当初, 今回の調査地点も東側に隣接する調査地点から続く土坑群が検出されると思われていたが, 調査区北側と南側では様相を異にしていた。 北側からは住居跡群が検出され, 南からは東側に隣接する調査区から連続する土坑群の検出である。この事は, 若林遺跡の住居空間とそれに伴う土坑群の境界線を推測するための重要な資料となるとと思われる。	
		中世以降	井戸跡1		なし			

※北緯・東経は世界測地系

水戸市埋蔵文化財調査報告第73集

# 若林遺跡

(第8地点)

－ 公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 －

印刷 平成25年3月29日

発行 平成25年3月29日

編集 株式会社シン技術コンサル

発行 水戸市教育委員会

印刷 細谷印刷有限公司

〒372-0031 群馬県伊勢崎市今泉町2丁目939番地5

TEL : 0270-25-0193